

#### 8-1-4 動物

##### (1) 重要な種及び注目すべき生息地

###### 1) 調査結果の概要

###### ① 動物相の状況

###### (a) 哺乳類の状況

###### a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における哺乳類の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

###### (7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

###### (4) 調査方法

表 8-1-4-1 に示す文献その他資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-1 哺乳類に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種

(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた哺乳類は、表 8-1-4-2 に示すとおり 7 目 12 科 21 種であった。

表 8-1-4-2 文献その他資料調査による哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準							文献・資料			
				I	II	III	IV	V	VI	VII	1	2		
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ									●		
2		モグラ	ヒミズ									●		
3			アズマモグラ									●		
4	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ									●		
5	サル	オナガザル	ニホンザル									●		
6	ウサギ	ウサギ	ノウサギ								●	●		
7	ネズミ	リス	ニホンリス								●	●		
8			ムササビ						NT1			●		
9		ネズミ	スミスネズミ									●		
10			ハタネズミ									●		
11			アカネズミ									●		
12			ヒメネズミ									●		
13			カヤネズミ									●		
14			クマネズミ									●		
15			ネコ	イヌ	タヌキ								●	●
16					キツネ								●	●
17		イタチ		テン								●	●	
18				イタチ								●	●	
19		ジャコウネコ		ハクビシン								●	●	
20		ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ								●	●	
21	シカ		ニホンジカ								●	●		
合計	7 目	12 科	21 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	9 種	21 種		

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（1993年、環境庁）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

## b) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における哺乳類の生息状況を把握するため、フィールドサイン法、無人撮影法、トラップ法及び夜間調査（コウモリ類を対象としたバットディテクター調査）を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

### (7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における哺乳類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲とした。

### (イ) 調査地点

哺乳類の調査のうち、フィールドサイン法及び夜間調査は特定の調査地点を設定せず、調査地域全域を対象とした。無人撮影法及びトラップ法の調査地点（6 地点）は、図 8-1-4-1 に示すとおりである。

また、無人撮影法及びトラップ法の調査地点の環境及び設定根拠は、表 8-1-4-3 に示すとおりである。



凡 例

- 対象事業実施区域及び関連施設
- 町村界
- 調査地域
- 哺乳類 無人撮影法・トラップ調査地点(T①～T⑥:6地点)

【植物群落】

<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; margin-right: 5px;"></span> スダジイ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #A52A2A; margin-right: 5px;"></span> アカマツ亜高木</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #90EE90; margin-right: 5px;"></span> コナラ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #3CB371; margin-right: 5px;"></span> ケヤキ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8FBC8F; margin-right: 5px;"></span> 先駆性木本群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> アカマツナキ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD700; margin-right: 5px;"></span> アスマネガサ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF8C00; margin-right: 5px;"></span> 竹林</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8B4513; margin-right: 5px;"></span> アカマツ植林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #666666; margin-right: 5px;"></span> スキ・ヒノキ植林</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #808080; margin-right: 5px;"></span> ハリエシノ植林</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ミゾソバ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ホントクダ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF8C00; margin-right: 5px;"></span> オオバタ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF69B4; margin-right: 5px;"></span> ヨモギ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #800080; margin-right: 5px;"></span> セイタカアワダチソウ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF8C00; margin-right: 5px;"></span> ヒシバエノコノメ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8B4513; margin-right: 5px;"></span> イシヒエ群落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFFACD; margin-right: 5px;"></span> チガヤ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD700; margin-right: 5px;"></span> シダレスクダ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD700; margin-right: 5px;"></span> ススキ・セイタカアワダチソウ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ヨシ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> クサヨシ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> オギ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ヒシ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFDAB9; margin-right: 5px;"></span> 畑地</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ADD8E6; margin-right: 5px;"></span> 水田</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #D2B48C; margin-right: 5px;"></span> 植栽地</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #A9A9A9; margin-right: 5px;"></span> 造成地等</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #C0C0C0; margin-right: 5px;"></span> 住宅地等</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ADD8E6; margin-right: 5px;"></span> 開放水域</li> </ul>
--	---	---	---



1:15,000

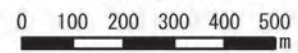


図 8-1-4-1 哺乳類調査地点

表 8-1-4-3 哺乳類の調査地点の環境及び設定根拠

調査区分	地点 No.	主な環境	設定根拠
トラップ法 無人撮影法	T①	対象事業実施区域内の スギ・ヒノキ植林	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に北側を代表する地点。北側はスギ・ヒノキ植林が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	T②	対象事業実施区域内の ススキ-セイタカアワ ダチソウ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のススキ-セイタカアワダチソウ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に東側を代表する地点。東側はススキ-セイタカアワダチソウ群落等の草地在り、代表的な植生であること、本地点は林縁部であり、T③と特徴が異なることから選定した。</li> </ul>
	T③	対象事業実施区域内の ススキ-セイタカアワ ダチソウ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のススキ-セイタカアワダチソウ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に東側を代表する地点。東側はススキ-セイタカアワダチソウ群落等の草地在り、代表的な植生であること、本地点は特に広範囲に開けており、T②と特徴が異なることから選定した。</li> </ul>
	T④	対象事業実施区域内の スギ・ヒノキ植林	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に南側を代表する地点。南側はスギ・ヒノキ植林やコナラ群落がモザイク状に存在する点が特徴的であることから、そのうち前者を選定した。</li> </ul>
	T⑤	対象事業実施区域内の コナラ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のコナラ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に北側を代表する地点。北側はコナラ群落が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	T⑥	対象事業実施区域内の コナラ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のコナラ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に南側を代表する地点。南側はスギ・ヒノキ植林やコナラ群落がモザイク状に存在する点が特徴的であることから、そのうち後者を選定した。</li> </ul>

(ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-4 に示すとおりである。

表 8-1-4-4 哺乳類の調査期間

季節区分	調査区分	調査期間
秋季	フィールドサイン法	令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日 令和元年 11 月 5 日～令和元年 11 月 8 日
	トラップ法 無人撮影法	令和元年 11 月 5 日～令和元年 11 月 7 日
	夜間調査	令和 2 年 9 月 7 日～令和 2 年 9 月 8 日
冬季	フィールドサイン調査	令和 2 年 1 月 20 日～令和 2 年 1 月 23 日
	無人撮影法	令和 2 年 1 月 20 日～令和 2 年 1 月 22 日
春季	フィールドサイン法	令和 2 年 5 月 18 日～令和 2 年 5 月 21 日
	トラップ法 無人撮影法	令和 2 年 5 月 18 日～令和 2 年 5 月 21 日
	夜間調査	令和 2 年 5 月 20 日、令和 2 年 5 月 25 日
夏季	フィールドサイン法	令和 2 年 8 月 3 日～令和 2 年 8 月 6 日
	無人撮影法	令和 2 年 5 月 26 日、令和 2 年 5 月 28 日
	夜間調査	令和 2 年 8 月 3 日

(エ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-5 に示すとおりである。

表 8-1-4-5 哺乳類の調査方法

調査項目	調査方法
フィールドサイン法	・調査地域全域を踏査し、哺乳類の痕跡（死骸、糞、足跡、体毛、食痕等）と目撃から確認した生息種を記録した。
トラップ法	・調査地点を 6 地点設定し、各地点にシャーマントラップ 20 個、墜落缶 5 個を 1 昼夜設置し、捕獲された種を記録し、記録後放獣した。
無人撮影法	・調査地点を 6 地点設定し、各地点に無人撮影装置 1 台を 1 昼夜設置し、撮影された種を記録した。
夜間調査	・バットディテクター（機種名：Pettersson ULTRASOUND DETECTOR D240X 又は Mini-3 Bat Detector）を用いて調査地域を踏査し※、コウモリ類の発する超音波の周波数及び確認位置を記録した。

注：※コウモリ類のバットディテクター調査は夜間調査となるため、事故防止の観点から車両の走行が可能な箇所等、安全を確保できる箇所を中心に実施した。

(オ) 調査結果

調査地域における哺乳類の確認種は、表 8-1-4-6 に示すとおり 6 目 11 科 17 種であった。

フィールドサイン法では、ニホンジカ、ニホンイノシシ、タヌキの順に確認数が多く、いずれの種もコナラ群落、スギ・ヒノキ植林及びススキ・セイタカアワダチソウ群落等の草地で多く確認された。その他、樹林地ではニホンリスやムササビ等の樹林性の種が、草地ではノウサギやカヤネズミといった種の確認が多かった。

トラップ法では、アカネズミがコナラ群落及びススキ-セイタカアワダチソウ群落で捕獲された。

無人撮影法では、アナグマがコナラ群落で確認された。

夜間調査では、45kHz 前後及び 20kHz 前後をピークとするコウモリ類のエコーロケーション音が確認された。

表 8-1-4-6 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				秋季	冬季	春季	夏季
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ	●	●	●	●
2	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科			●	●
3		-	コウモリ目	●		●	●
4	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	●	●	●	
5	ネズミ	リス	ニホンリス	●	●	●	●
6			ムササビ	●	●	●	
7		ネズミ	アカネズミ	●		●	●
8			カヤネズミ	●	●	●	●
9	ネコ	アライグマ	アライグマ	●	●	●	●
10		イヌ	タヌキ	●	●	●	●
11			キツネ		●		
12		イタチ	テン	●	●	●	
13			イタチ	●	●	●	●
14			アナグマ			●	●
15	ジャコウネコ	ハクビシン	●			●	
16	ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ	●	●	●	●
17		シカ	ニホンジカ	●	●	●	●
計	6 目	11 科	17 種	14 種	12 種	15 種	13 種

注 1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（1993 年、環境庁）に準拠した。

注 2：コウモリ目の一種については、同一の分類群に属する可能性のある種を含むが、確認状況からそれらが別種であると推定されたため、種数を計数した。

注 3：ヒナコウモリ科の一種は、バットディテクターで 45kHz 前後をピークとする周波数帯の種である。

注 4：コウモリ目の一種は、バットディテクターで 20kHz 前後をピークとする周波数帯の種その他、目撃による確認を含む（秋季）。

(b) 鳥類の状況（一般鳥類）

a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における鳥類の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(イ) 調査方法

表 8-1-4-7 に示す文献その他資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-7 鳥類に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第3回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種



(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた鳥類は、表 8-1-4-8 に示すとおり 16 目 41 科 104 種であった。

表 8-1-4-8(1) 文献その他資料調査による鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料	
				I	II	III	IV	V	VI			VII		
									全県評価	地帯別評価				
										低山帯	台地・丘陵帯			
1	キジ	キジ	コジュケイ										●	●
2			ヤマドリ						VU(繁・越)	VU(繁・越)	VU(繁・越)		●	
3			キジ										●	●
4	カモ	カモ	オシドリ					DD	EN(繁) VU(越)	EN(繁) VU(越)	VU(越)		●	●
5			ヒドリガモ										●	
6			マガモ										●	●
7			カルガモ										●	●
8			オナガガモ										●	
9			コガモ										●	●
10			キンクロハジロ										●	
11	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ										●	●
12	ハト	ハト	ドバト										●	
13			キジバト										●	●
14			アオバト						RT(繁)	LP(繁)			●	●
15	カツオドリ	ウ	カワウ											●
16	ペリカン	サギ	ゴイサギ										●	●
17			ササゴイ						EN(繁)	EN(繁)	EN(繁)			●
18			アオサギ											●
19			ダイサギ											●
20			チュウサギ					NT	VU(繁)	VU(繁)	VU(繁)		●	
21			コサギ						NT2(繁)		NT2(繁)		●	●
22	ツル	クイナ	バン						NT2(繁)					●
23			オオバン						NT1(繁)				●	
24	カッコウ	カッコウ	ホトトギス						RT(繁)	LP(繁)				●
25			ツツドリ						LP(繁)	LP(繁)				●
26	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ											●
27	チドリ	チドリ	タゲリ						NT2(越)		EN(越)		●	●
28			ケリ					DD	NT1(繁) EN(越)					●
29			イカルチドリ						NT1(繁)	NT1(繁)	NT1(繁)		●	●
30			コチドリ										●	
31		シギ	クサシギ										●	●
32			イソシギ						VU(繁)		NT2(繁)		●	●
33			ヒバリシギ										●	
34		カモメ	ユリカモメ										●	
35			カモメ										●	
36	タカ	タカ	トビ						DD(繁)		DD(繁)		●	●
37			ツミ						NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)		●	
38			ハイタカ					NT	DD(繁) NT2(越)	DD(繁・越)	NT2(越)		●	●
39			オオタカ					NT	VU(繁・越)	VU(繁)	VU(繁) NT2(越)			●
40			サシバ					VU	CR(繁)	VU(繁)	CR(繁)			●
41			ノスリ						NT2 (繁・越)	NT2(繁)	DD(繁) NT2(越)		●	●

表 8-1-4-8(2) 文献その他資料調査による鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準										文献・資料	
				I	II	III	IV	V	VI			VII			
									全県 評価	地帯別評価					
										低山帯	台地・ 丘陵帯				
											1	2			
42	フクロウ	フクロウ	フクロウ						RT(繁) NT2(越)	DD(繁)	VU(繁) NT2(越)		●		
43			アオバズク						NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)		●		
44	アホウウ	カワセミ	アカショウビン						CR(繁)	CR(繁)	EX(繁)		●		
45			カワセミ						RT(繁)			●	●		
46			ヤマセミ						NT2(繁)	VU(繁)	EN(繁)	●	●		
47	キツツキ	キツツキ	コゲラ									●	●		
48			アカゲラ									●	●		
49			アオゲラ						RT(繁)			●	●		
50	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ						NT2(繁)	EX(繁)	VU(繁)	●	●		
51	スズメ	サシヨウクイ	サンショウクイ					VU	EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)		●		
52		カサギヒタ	サンコウチョウ						EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)		●		
53		モズ	モズ									●	●		
54		カラス	カケス									●	●		
55			オナガ									●	●		
56			ハシボソガラス									●	●		
57			ハシブトガラス									●	●		
58		キクイタダキ	キクイタダキ									●	●		
59		シジュウカラ	コガラ						NT2(繁)	NT2(繁)		●			
60			ヤマガラ						RT(繁)		NT2(繁)	●	●		
61			ヒガラ						RT(繁)		VU(繁)	●	●		
62			シジュウカラ									●	●		
63		ヒバリ	ヒバリ									●	●		
64		ツバメ	ツバメ										●		
65			イワツバメ										●		
66		ヒヨドリ	ヒヨドリ									●	●		
67		ウグイス	ウグイス						RT(繁)	NT2(繁)		●	●		
68			ヤブサメ						NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)		●		
69		エナガ	エナガ									●	●		
70		ムシクイ	メボソムシクイ						NT2(繁)	NT2(繁)			●		
71			セダヒシクイ						NT2(繁)	NT2(繁)	CR(繁)		●		
72		メジロ	メジロ									●	●		
73		ヨシキリ	オオヨシキリ						NT2(繁)		NT2(繁)		●		
74		セッカ	セッカ										●		
75		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ						NT2(繁)	NT2(繁)		●			
76		ミンサザイ	ミンサザイ									●			
77		ムクドリ	ムクドリ									●	●		
78		ヒタキ	トラツグミ						NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)	●			
79			シロハラ									●	●		
80			ツグミ									●	●		
81			ルリビタキ						RT(越)			●	●		
82			ジョウビタキ									●	●		
83			ノビタキ									●	●		
84			キビタキ						RT(繁)		NT1(繁)		●		
85			オオルリ						RT(繁)		CR(繁)		●		
86		イワヒバリ	カヤクグリ									●			
87		スズメ	スズメ									●	●		
88		セキレイ	キセキレイ									●	●		
89			ハクセキレイ									●	●		
90			セグロセキレイ									●	●		

表 8-1-4-8(3) 文献その他資料調査による鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料			
				I	II	III	IV	V	VI			VII	1	2		
									全県 評価	地帯別評価						
										低山帯	台地・ 丘陵帯					
91	スズメ	セキレイ	タヒバリ										●	●		
92		アトリ	アトリ											●		
93			カワラヒワ											●	●	
94			マヒワ											●	●	
95			ベニマシコ							RT(越)		NT2(越)		●		
96			オオマシコ												●	
97			ウソ												●	●
98			シメ												●	●
99			イカル												●	●
100		ホオジロ	ホオジロ							RT(繁)		NT2(繁)		●	●	
101			カシラダカ											●	●	
102			ミヤマホオジロ							NT1(越)		NT1(越)		●	●	
103			アオジ							DD(繁)				●	●	
104			クロジ							RT(越)		NT2(越)		●		
合計	16 目	41 科	104 種	0 種	0 種	0 種	0 種	7 種	47 種	27 種	33 種	0 種	78 種	84 種		

注1：分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年、日本鳥学会)に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行)

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年、環境省)における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

(繁)：繁殖期 (越)：越冬期

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000年、埼玉県)に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

## b) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における鳥類の生息状況を把握するため、ラインセンサス法、ポイントセンサス法、任意観察及び夜間・早朝調査（ミゾゴイを対象とした囀り調査及びその他の鳥類を対象とした任意踏査）を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

また、調査結果は別途実施した猛禽類の調査結果を含めて整理した。

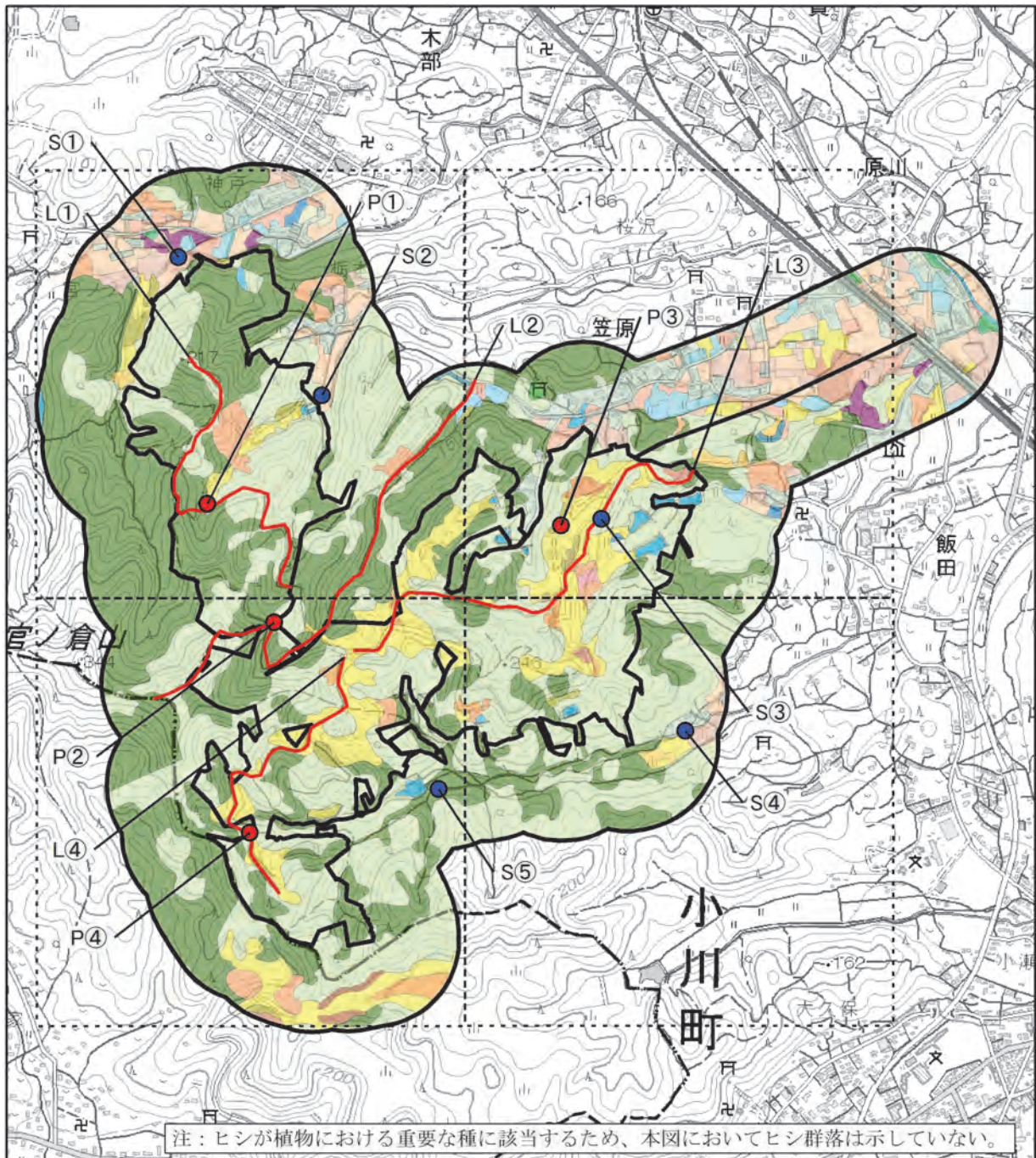
## (7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における鳥類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲とした。猛禽類については、出現状況に応じて適宜拡大した。

## (イ) 調査地点

鳥類の調査のうち、任意観察及び夜間調査（任意踏査）は特定の調査地点を設定せず、調査地域全域を対象とした。ラインセンサス法の調査ルート（4 ルート）、ポイントセンサス法（4 地点）及び夜間・早朝調査（囀り調査）の調査地点（5 地点）は、図 8-1-4-2 に示すとおりである。

また、ラインセンサス調査ルートの環境及び設定根拠は表 8-1-4-9 に、ポイントセンサス調査地点、夜間・早朝調査（囀り調査）の調査地点の環境及び設定根拠は表 8-1-4-10 に、それぞれ示すとおりである。



凡 例

- 対象事業実施区域及び関連施設
- 町村界
- 調査地域
- 鳥類 ホイットセンサス法調査地点(P①～P④:4地点)
- 鳥類 ラインセンサス法調査ルート(L①～L④:4ルート)
- 1km四方メッシュ
- 鳥類 夜間・早朝調査地点(S①～S⑤:5地点)

【植物群落】

<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; margin-right: 5px;"></span> スダジイ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #A52A2A; margin-right: 5px;"></span> アカマツ亜高木</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #90EE90; margin-right: 5px;"></span> コナラ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #3CB371; margin-right: 5px;"></span> ケヤキ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8FBC8F; margin-right: 5px;"></span> 先駆性木本群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> アカマツナキ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD700; margin-right: 5px;"></span> アスマネササ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF8C00; margin-right: 5px;"></span> 竹林</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8B4513; margin-right: 5px;"></span> アカマツ植林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #666666; margin-right: 5px;"></span> スギ・ヒノキ植林</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #808080; margin-right: 5px;"></span> ハリエシジミ植林</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ミゾソバ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ホントクダテ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF8C00; margin-right: 5px;"></span> オオバツクサ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF69B4; margin-right: 5px;"></span> ヨモギ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #800080; margin-right: 5px;"></span> セイタカアワダチソウ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF8C00; margin-right: 5px;"></span> シシバ・エノコログサ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8B4513; margin-right: 5px;"></span> イシヒエ群落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #F5F5DC; margin-right: 5px;"></span> チガヤ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD700; margin-right: 5px;"></span> シダレスズカヤ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD700; margin-right: 5px;"></span> ススキ・セイタカアワダチソウ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ヨシ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> クサヨシ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> オギ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4682B4; margin-right: 5px;"></span> ヒシ群落</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFDAB9; margin-right: 5px;"></span> 畑地</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ADD8E6; margin-right: 5px;"></span> 水田</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #D2B48C; margin-right: 5px;"></span> 植栽地</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #A9A9A9; margin-right: 5px;"></span> 造成地等</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #C0C0C0; margin-right: 5px;"></span> 住宅地等</li> <li><span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ADD8E6; margin-right: 5px;"></span> 開放水域</li> </ul>
--	---	--	---

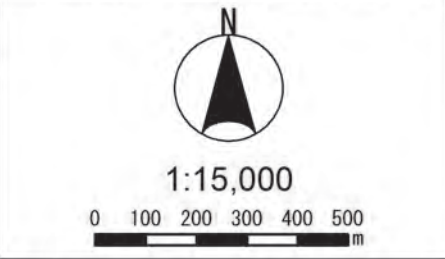


図 8-1-4-2

鳥類調査地点・調査ルート

表 8-1-4-9 鳥類の調査ルート環境及び設定根拠

調査区分	地点 No.	主な環境	設定根拠
ライセンス法	L①	対象事業実施区域内の樹林環境(スギ・ヒノキ植林、コナラ群落)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象事業実施区域内の樹林環境(スギ・ヒノキ植林及びコナラ群落)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>・調査地域のうち、主に北側を代表するルートであり、旧作業道等を基本とした。北側はスギ・ヒノキ植林及びコナラ群落が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	L②	対象事業実施区域内外の樹林環境(スギ・ヒノキ植林、コナラ群落)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象事業実施区域内外の樹林環境(スギ・ヒノキ植林及びコナラ群落)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>・調査地域のうち、主に中央を代表するルートであり、官ノ倉山へのハイキングコースを基本とした。中央はスギ・ヒノキ植林及びコナラ群落が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	L③	対象事業実施区域内の草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象事業実施区域内の草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>・調査地域のうち、主に東側を代表するルートであり、旧作業道等を基本とした。東側はススキ-セイタカアワダチソウ群落等が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	L④	対象事業実施区域内の樹林環境(コナラ群落、スギ・ヒノキ植林等)、草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象事業実施区域内の樹林環境(スギ・ヒノキ植林及びコナラ群落)及び草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>・調査地域のうち、主に南側を代表するルートであり、旧作業道等を基本とした。南側はスギ・ヒノキ植林やコナラ群落がモザイク状に存在する点特徴的であることから、それらを確認できるルートを選定した。</li> </ul>

表 8-1-4-10 鳥類の調査地点の環境及び設定根拠

調査区分	地点 No.	主な環境	設定根拠
ポイント センサス法	P①	対象事業実施区域内の樹林環境(スギ・ヒノキ植林、コナラ群落)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内の樹林環境(スギ・ヒノキ植林及びコナラ群落)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に北側を代表する地点である。北側はスギ・ヒノキ植林及びコナラ群落が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	P②	対象事業実施区域内外の樹林環境(スギ・ヒノキ植林、コナラ群落)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内外の樹林環境(スギ・ヒノキ植林及びコナラ群落)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に中央を代表する地点である。中央はスギ・ヒノキ植林及びコナラ群落が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	P③	対象事業実施区域内の草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内の草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に東側を代表する地点である。東側はススキ-セイタカアワダチソウ群落等が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	P④	対象事業実施区域内の樹林環境(コナラ群落、スギ・ヒノキ植林等)、草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内の樹林環境(スギ・ヒノキ植林及びコナラ群落)及び草地環境(ススキ-セイタカアワダチソウ群落等)における鳥類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に南側を代表する地点である。南側はスギ・ヒノキ植林やコナラ群落がモザイク状に存在する点が特徴的であることから、それらを確認できるルートを選定した。</li> </ul>
夜間調査 (囀り調査)	S①～S⑤	対象事業実施区域内外の全域	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間の安全を確保しつつ、対象事業実施区域内外におけるミゾゴイの生息状況を把握するため。</li> <li>「ミゾゴイ保護の進め方」(平成28年6月、環境省自然環境局野生生物課)を参考に、調査地域を1km四方のメッシュに分割し、1メッシュにつき1～2地点、計5点を設定した。なお、事故防止の観点から、安全を確保できる地点を中心に設定した。</li> </ul>

(ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-11 に示すとおりである。

表 8-1-4-11 鳥類の調査期間

季節区分	調査区分	調査期間
秋季	ラインセンサス調査	令和元年 10 月 17 日
	ポイントセンサス調査	令和元年 10 月 17 日
	任意観察	令和元年 10 月 16 日～令和元年 10 月 18 日
冬季	ラインセンサス調査	令和 2 年 1 月 21 日～令和 2 年 1 月 22 日
	ポイントセンサス調査	令和 2 年 1 月 21 日～令和 2 年 1 月 22 日
	任意観察	令和 2 年 1 月 20 日～令和 2 年 1 月 23 日
	夜間調査（任意踏査）	令和 2 年 1 月 21 日
春季	ラインセンサス調査	令和 2 年 5 月 26 日
	ポイントセンサス調査	令和 2 年 5 月 26 日
	任意観察	令和 2 年 5 月 25 日～令和 2 年 5 月 26 日
	夜間調査（任意踏査）	令和 2 年 5 月 7 日～令和 2 年 5 月 8 日
	夜間・早朝調査（囀り調査）	令和 2 年 5 月 7 日～令和 2 年 5 月 9 日 令和 2 年 5 月 18 日～令和 2 年 5 月 19 日 令和 2 年 5 月 21 日～令和 2 年 5 月 22 日 令和 2 年 5 月 27 日～令和 2 年 5 月 29 日
繁殖期	ラインセンサス調査	令和 2 年 6 月 15 日～令和 2 年 6 月 16 日
	ポイントセンサス調査	令和 2 年 6 月 15 日～令和 2 年 6 月 16 日
	任意観察	令和 2 年 6 月 15 日～令和 2 年 6 月 18 日
	夜間調査（任意踏査）	令和 2 年 6 月 15 日
夏季	ラインセンサス調査	令和 2 年 8 月 12 日～令和 2 年 8 月 13 日
	ポイントセンサス調査	令和 2 年 8 月 12 日～令和 2 年 8 月 13 日
	任意観察	令和 2 年 8 月 11 日～令和 2 年 8 月 14 日

注：調査結果で後述するとおり夜間・早朝調査（囀り調査）においてミゾゴイが確認されたこと、令和 2 年度第 3 回太陽電池部会で顧問より意見を頂いたことを踏まえて、本表に示した調査に加えて、ミゾゴイの営巣地確認調査を実施した。その結果は「生態系」の予測・評価に用いたことから、内容等は「生態系」において示す。



(イ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-12 に示すとおりである。

表 8-1-4-12 鳥類の調査方法

調査項目	調査方法
ラインセンサス法	・調査地域に設定したセンサスルート（4ルート）において片側 25m 程度の範囲を 1.5～2.0km の歩行速度で踏査し、目視及び鳴き声による確認を基に種類及び個体数を記録した。
ポイントセンサス法	・調査地域に設定したポイントセンサス地点（4地点）において各地点で 30 分間の観察を行い、目視及び鳴き声による確認を基に種類及び個体数を記録した。
任意観察	・調査地域全域を任意に踏査し、目視及び鳴き声による確認を基に種類を記録した。
夜間調査（任意踏査）	・調査地域を踏査し※、主に鳴き声による確認を基に種類を記録した他、確認が想定される鳥類の録音音声を流して鳴き交わしを確認した。
夜間・早朝調査（囀り調査）	・調査地域を 1km 四方に分割したメッシュ毎に設定した調査地点において、ミゾゴイの囀りを確認した※。なお、調査地点 S①及び S②は、各調査日においてどちらかの地点を利用した。囀りの確認は、人による直接の確認の他、IC レコーダーによる録音を利用した。調査時間は、日没後及び日の出前後の 2 時間程度とした。

注：※夜間・早朝調査は、事故防止の観点から車両の走行が可能な箇所等、安全を確保できる箇所を中心に実施した。

(オ) 調査結果

調査地域における鳥類の確認種は、表 8-1-4-13 に示すとおり 14 目 34 科 77 種であった。

表 8-1-4-13(1) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期					猛禽類 調査	
				秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季		
1	キジ	キジ	コジュケイ	●	●	●	●	●		
2			キジ	●		●				
3	カモ	カモ	オシドリ			●				
4			カルガモ		●	●	●			
5			コガモ		●					
6	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			●	●			
7	ハト	ハト	キジバト	●	●	●	●	●		
8			アオバト	●	●	●		●		
9	カツオドリ	ウ	カワウ		●					
10	ペリカン	サギ	ミゾゴイ			●				
11			アオサギ	●	●	●				
12			ダイサギ		●					
13	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ			●				
14			ホトトギス			●	●			
15			ツツドリ			●				
16	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			●				
17	タカ	タカ	ハチクマ						●	
18			トビ	●						●
19			ツミ	●		●	●			●
20			ハイタカ	●	●					●
21			オオタカ							●
22			サシバ			●	●			●
23			ノスリ	●	●	●				●
24	フクロウ	フクロウ	フクロウ		●	●				
25			アオバズク			●	●			
26	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		●	●	●			
27	キツツキ	キツツキ	コゲラ	●	●	●	●	●		
28			アカゲラ	●	●					
29			アオゲラ	●		●	●	●		
30	ハヤブサ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	●						
31			ハヤブサ							●
32	スズメ	サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ		●					
33		カササギヒタキ	サンコウチョウ			●	●			
34		モズ	モズ	●	●	●	●			
35		カラス	カケス	●	●				●	
36			オナガ			●				
37			ハシボソガラス	●	●	●	●	●		
38			ハシブトガラス	●	●	●	●	●		
39		キクイタダキ	キクイタダキ		●					
40		シジュウカラ	ヤマガラ	●	●	●	●	●		
41			ヒガラ		●					
42			シジュウカラ	●	●	●	●	●		
43		ツバメ	ツバメ			●	●	●		
44			イワツバメ			●		●		
45		ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	●		
46		ウグイス	ウグイス	●	●	●	●	●		

表 8-1-4-13(2) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期					猛禽類 調査
				秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	
47	スズメ	ウグイス	ヤブサメ			●	●	●	
48		エナガ	エナガ	●	●	●	●	●	
49		ムシクイ	オオムシクイ			●			
50		メジロ	メジロ	●	●	●	●	●	
51		ミソサザイ	ミソサザイ		●				
52		ムクドリ	ムクドリ		●	●	●		
53		ヒタキ	トラツグミ			●	●		
54			シロハラ		●				
55			ツグミ		●				
56			ルリビタキ		●				
57			ジョウビタキ		●				
58			キビタキ	●		●	●		
59			オオルリ			●	●		
60			イワヒバリ	カヤクグリ		●			
61		スズメ	スズメ	●	●	●	●	●	
62		セキレイ	キセキレイ	●	●	●	●		
63			ハクセキレイ	●		●	●	●	
64			セグロセキレイ	●		●		●	
65			ビンズイ	●	●				
66		アトリ	カワラヒワ	●	●	●	●		
67	マヒワ			●					
68	ベニマシコ			●					
69	イスカ			●					
70	ウソ			●					
71	シメ		●	●					
72	イカル		●	●	●	●	●		
73	ホオジロ	ホオジロ	●	●	●	●	●		
74		カシラダカ	●	●					
75		アオジ	●	●					
76		クロジ		●					
77	チメドリ	ガビチョウ	●	●	●	●	●		
合計	14 目	34 科	77 種	37 種	49 種	48 種	34 種	23 種	8 種

注1：分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（2012年、日本鳥学会）に準拠した。

注2：表中の「猛禽類調査」の列は、後述する「(c) 鳥類の状況（猛禽類）」の調査において確認されたことを示す。

ラインセンサス法の調査結果は、表 8-1-4-14 に示すとおりである。

全ての調査ルートに共通して、広葉樹林（主にコナラ群落）及び針葉樹林（スギ・ヒノキ植林）における確認種数及び個体数が多かった。加えて、L③やL④では草地の確認種が多く、調査面積の大きさが反映された結果となった。また、ラインセンサス法全体の調査結果について環境類型に着目すると、各調査ルートの傾向と同様に、広葉樹林及び針葉樹林における生息密度が高く、メジロ、ウグイス及びヒヨドリといった樹林性の鳥類が優占種となっていた。一方、草地や伐採跡地・竹林では確認された鳥類の種数は少ないものの、ホオジロやアオジ、ベニマシコ等、樹林では確認が少ない鳥類が優占していた。

ポイントセンサス法の調査結果は、表 8-1-4-15 に示すとおりである。

樹林が主体となるP①及びP②では、ヒヨドリやメジロ、シジュウカラ、ヤマガラ等のカラ類、エナガ等の樹林性の鳥類で例数の多くが占められていた。一方、草地を含むP③及びP④ではホオジロやカワラヒワ等、例数は少ないもののP①及びP②では確認されていない種が確認された。

また、この他実施した夜間調査（任意踏査）ではフクロウ、ヨタカといった夜行性鳥類が、夜間・早朝調査（囀り調査）ではミゾゴイが確認された。

表 8-1-4-14(1) ラインセンサ法 調査結果 (L①)

【対象植物群落】

広葉樹林：コナラ群落 針葉樹林：スギ・ヒノキ植林 伐採跡地・竹林：竹林

環境類型	面積 (ha)	種名	秋季		冬季		春季		繁殖期		夏季		
			個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	
広葉樹林	2.13	メジロ	10	4.69	2	0.94	3	1.41	6	2.82	1	0.47	
		ヒヨドリ	4	1.88	1	0.47	3	1.41	4	1.88			
		シジュウカラ	3	1.41	3	1.41			2	0.94			
		エナガ							7	3.29			
		コゲラ	1	0.47	1	0.47	2	0.94	2	0.94			
		ヤマガラ	2	0.94	1	0.47	2	0.94					
		ウグイス	1	0.47			1	0.47	2	0.94			
		アオジ			3	1.41							
		キジバト	1	0.47								1	0.47
		アオバト					1	0.47					
		イカル					1	0.47					
キビタキ								1	0.47				
合計		個体数・密度	22	10.33	11	5.16	13	6.10	24	11.27	2	0.94	
		種数	7		6		7		7		2		
針葉樹林	2.70	ヒヨドリ	5	1.85			4	1.48	9	3.33	1	0.37	
		メジロ	3	1.11	1	0.37	4	1.48	6	2.22	3	1.11	
		ヤマガラ	3	1.11			4	1.48	3	1.11	1	0.37	
		シジュウカラ	2	0.74			1	0.37	6	2.22			
		キクイタダキ			8	2.96							
		ハシブトガラス					5	1.85					
		カケス	4	1.48									
		ヤブサメ							2	0.74	2	0.74	
		アオゲラ	2	0.74					1	0.37			
		キジバト	1	0.37					1	0.37	1	0.37	
		キビタキ					1	0.37	2	0.74			
		イカル							2	0.74			
		コゲラ					1	0.37	1	0.37			
		ウグイス			1	0.37							
		ガビチョウ							1	0.37			
シロハラ			1	0.37									
ミソサザイ			1	0.37									
合計		個体数・密度	20	7.41	12	4.44	20	7.41	34	12.59	8	2.96	
		種数	7		5		7		11		5		
伐採跡地・竹林	0.11	メジロ						1	9.09	1	9.09		
		ヤブサメ					1	9.09					
合計		個体数・密度					1	9.09	1	9.09	1	9.09	
		種数					1		1		1		

注1：各環境の確認種の配列は、1季当りの密度が大きい順とした。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

注3：各種の密度は、1ha 当りの確認個体数を示す。

注4：各種の密度は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-14(2) ラインセンサス法 調査結果 (L②)

【対象植物群落】

広葉樹林：コナラ群落、植栽地 針葉樹林：スギ・ヒノキ植林 草地：スキセイカアワダチソウ群落  
伐採跡地・竹林：竹林、先駆性木本群落

環境類型	面積 (ha)	種名	秋季		冬季		春季		繁殖期		夏季	
			個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度
広葉樹林	2.34	メジロ	5	2.14	1	0.43	2	0.85			5	2.14
		シジュウカラ	3	1.28	2	0.85	2	0.85			1	0.43
		ヒヨドリ					2	0.85	1	0.43	2	0.85
		コゲラ	3	1.28							1	0.43
		ヤマガラ	1	0.43			1	0.43	1	0.43	1	0.43
		キビタキ					2	0.85	1	0.43		
		カケス	2	0.85								
		ガビチョウ							1	0.43	1	0.43
		ハシブトガラス					1	0.43	1	0.43		
		アカゲラ			1	0.43						
ホオジロ								1	0.43			
ルリビタキ					1	0.43						
合計		個体数・密度	14	5.98	5	2.14	10	4.27	6	2.56	11	4.70
		種数	5		4		6		6		6	
針葉樹林	3.87	メジロ	10	2.58	5	1.29	5	1.29	9	2.33	7	1.81
		ヒヨドリ	13	3.36	1	0.26	6	1.55	6	1.55	5	1.29
		ヤマガラ			3	0.78	3	0.78	4	1.03	8	2.07
		シジュウカラ	2	0.52	2	0.52	4	1.03	7	1.81		
		クロジ			12	3.10						
		エナガ	2	0.52			1	0.26	5	1.29		
		ウグイス	1	0.26	5	1.29	1	0.26				
		キクイタダキ			6	1.55						
		ハシブトガラス					5	1.29	1	0.26		
		キジバト					2	0.52	1	0.26	1	0.26
		コゲラ					1	0.26	2	0.52		
		カケス	2	0.52								
		ガビチョウ	1	0.26			1	0.26				
		キビタキ								2	0.52	
		ミソサザイ			2	0.52						
		オオルリ								1	0.26	
シロハラ			1	0.26								
ヒガラ			1	0.26								
ヤブサメ							1	0.26				
ルリビタキ					1	0.26						
合計		個体数・密度	31	8.01	39	10.08	30	7.75	38	9.82	21	5.43
		種数	7		11		11		10		4	
草地	0.31	アオジ			2	6.45						
		カシラダカ			2	6.45						
合計		個体数・密度	0		4	12.90	0		0		0	
		種数	0		2		0		0		0	
伐採跡地・竹林	0.25	ホオジロ								1	4.00	
合計		個体数・密度	0		0		0		0		1	4.00
		種数	0		0		0		0		1	

注1：各環境の確認種の配列は、1季当りの密度が大きい順とした。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

注3：各種の密度は、1ha当りの確認個体数を示す。

注4：各種の密度は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-14(3) ラインセンサス法 調査結果 (L③)

【対象植物群落】

広葉樹林：コナラ群落、アマツツギ高木 針葉樹林：スギ・ヒノキ植林 草地：ススキ・イタドリ群落、オオバコ群落、シタレススギ群落、コナラ群落 伐採跡地・竹林：竹林、先駆性木本群落、ハルニシ植林、アズマネザサ群落

環境類型	面積 (ha)	種名	秋季		冬季		春季		繁殖期		夏季	
			個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度
広葉樹林	2.28	メジロ	22	9.65	2	0.88	8	3.51	12	5.26	14	6.14
		シジュウカラ	3	1.32	5	2.19	6	2.63	8	3.51	1	0.44
		ヒヨドリ	5	2.19	2	0.88	10	4.39	5	2.19	1	0.44
		ウグイス					10	4.39	3	1.32	4	1.75
		ヤマガラ	2	0.88	3	1.32	4	1.75	1	0.44	2	0.88
		ガビチョウ	4	1.75			5	2.19	2	0.88		
		コジュケイ	2	0.88	3	1.32			3	1.32	1	0.44
		コジュケイ					3	1.32	3	1.32	2	0.88
		エナガ	2	0.88	3	1.32						
		ハシブトガラス	1	0.44			4	1.75				
		キジバト					2	0.88	1	0.44	1	0.44
		キビタキ					3	1.32	1	0.44		
		カシラダカ			3	1.32						
		イカル							2	0.88		
		カケス	1	0.44	1	0.44						
		アオゲラ							1	0.44		
		アオジ	1	0.44								
		アオバト					1	0.44				
		アカゲラ	1	0.44								
		キジ					1	0.44				
シメ			1	0.44								
ホオジロ							1	0.44				
ホトトギス					1	0.44						
ルリビタキ			1	0.44								
合計		個体数・密度	44	19.30	24	10.53	58	25.44	43	18.86	26	11.40
		種数	11		10		13		13		8	
針葉樹林	0.77	メジロ			3	3.90			7	9.09	1	1.30
		シジュウカラ	3	3.90	4	5.19			1	1.30		
		ヒヨドリ	1	1.30	1	1.30	1	1.30	2	2.60	1	1.30
		ヤマガラ			2	2.60			3	3.90		
		エナガ							2	2.60		
		キクイタダキ			2	2.60						
		キジバト							1	1.30	1	1.30
		キビタキ					2	2.60				
ヒガラ			2	2.60								
ウグイス							1	1.30				
合計		個体数・密度	4	5.19	14	18.18	3	3.90	17	22.08	3	3.90
		種数	2		6		2		7		3	
草地	2.51	ホオジロ	6	2.39	7	2.79	3	1.20	8	3.19	6	2.39
		アオジ			8	3.19						
		ウグイス	4	1.59	2	0.80			2	0.80		
		ガビチョウ	5	1.99								
		コジュケイ	3	1.20								
		ジョウビタキ			2	0.80						
		カシラダカ	1	0.40								
		カルガモ							1	0.40		
ベニマシコ			1	0.40								
合計		個体数・密度	19	7.57	20	7.97	3	1.20	11	4.38	6	2.39
		種数	5		5		1		3		1	
伐採跡地・竹林	0.25	アオジ			6	24.00						
		ウグイス			1	4.00	2	8.00			2	8.00
		ホオジロ			3	12.00						
		ガビチョウ					1	4.00				
		シロハラ			1	4.00						
ベニマシコ			1	4.00								
合計		個体数・密度	0		12	48.00	3	12.00	0		2	8.00
		種数	0		5		2		0		1	

注1：各環境の確認種の配列は、1季当りの密度が大きい順とした。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

注3：各種の密度は、1ha 当りの確認個体数を示す。

注4：各種の密度は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-14(4) ラインセンサス法 調査結果 (L④)

【対象植物群落】

広葉樹林：コナラ群落 針葉樹林：スギ・ヒノキ植林 草地：スキセイヤカワダチリ群落、シダレスマギヤ群落  
伐採跡地・竹林：先駆性木本群落

環境類型	面積 (ha)	種名	秋季		冬季		春季		繁殖期		夏季		
			個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	個体数	密度	
広葉樹林	1.39	メジロ	6	4.32			2	1.44	6	4.32	12	8.63	
		ヒヨドリ	1	0.72			7	5.04	10	7.19	2	1.44	
		ウグイス			2	1.44	10	7.19	4	2.88			
		ガビチョウ	4	2.88			3	2.16	4	2.88	1	0.72	
		ハシブトガラス					4	2.88	6	4.32	1	0.72	
		ヤマガラ	1	0.72			2	1.44	4	2.88	4	2.88	
		コゲラ	4	2.88	1	0.72			4	2.88	1	0.72	
		シジュウカラ	2	1.44	1	0.72	2	1.44	1	0.72	2	1.44	
		アオジ	1	0.72	5	3.60							
		キジバト								3	2.16	2	1.44
		エナガ	3	2.16									
		キビタキ					1	0.72	2	1.44			
		ホオジロ			2	1.44			1	0.72			
		アオゲラ										1	0.72
		イカル	1	0.72									
		ウソ			1	0.72							
		カケス	1	0.72									
		カヤクグリ			1	0.72							
		コジュケイ								1	0.72		
		サンコウチョウ								1	0.72		
ハイタカ			1	0.72									
ホトトギス							1	0.72					
ヤブサメ							1	0.72					
ルリビタキ			1	0.72									
合計		個体数・密度	24	17.27	15	10.79	33	23.74	47	33.81	26	18.71	
		種数	10		9		10		13		9		
針葉樹林	0.72	ヒヨドリ			2	2.78	4	5.56	5	6.94	1	1.39	
		ハシブトガラス					8	11.11	1	1.39			
		メジロ			2	2.78			2	2.78			
		アオジ			3	4.17							
		エナガ			3	4.17							
		シジュウカラ			3	4.17							
		ウグイス			2	2.78							
		ヤマガラ							1	1.39	1	1.39	
		アオゲラ	1	1.39									
		キビタキ							1	1.39			
コゲラ							1	1.39					
ルリビタキ			1	1.39									
合計		個体数・密度	1	1.39	16	22.22	12	16.67	11	15.28	2	2.78	
		種数	1		7		2		6		2		
草地	2.11	ホオジロ	4	1.90			1	0.47	1	0.47	2	0.95	
		アオジ	2	0.95	3	1.42							
		ウグイス	3	1.42	1	0.47							
		ガビチョウ	3	1.42									
		ベニマシコ			2	0.95							
		モズ	1	0.47									
合計		個体数・密度	13	6.16	6	2.84	1	0.47	1	0.47	2	0.95	
		種数	5		3		1		1		1		
伐採跡地・竹林	0.02	アオジ			1	5.00							
合計		個体数・密度			1	5.00							
		種数	0		1		0		0		0		

注1：各環境の確認種の配列は、1季当りの密度が大きい順とした。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

注3：各種の密度は、1ha 当りの確認個体数を示す。

注4：各種の密度は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。



表 8-1-4-14(5) ライセンス法 調査結果 (全調査ルート：環境別・季節別)

種名	広葉樹林					針葉樹林					草地					伐採跡地・竹林				
	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季
メジロ	5.28	0.61	1.84	2.95	3.93	1.61	1.37	1.12	2.98	1.37									1.59	1.59
ウグイス	0.12	0.25	2.58	1.10	0.49	0.12	0.99	0.12	0.12		1.40	0.60		0.40			1.59	3.19		3.19
ヒヨドリ	1.23	0.37	2.70	2.45	0.61	2.36	0.50	1.86	2.73	0.99										
アオジ	0.25	0.98					0.37				0.40	2.61					11.15			
ホオジロ		0.25		0.37							2.00	1.40	0.80	1.80	1.60		4.78			1.59
シジュウカラ	1.35	1.35	1.23	1.35	0.49	0.87	1.12	0.62	1.74											
ヤマガラ	0.74	0.49	1.10	0.74	0.86	0.37	0.62	0.87	1.37	1.24										
ガビチョウ	0.98		0.98	0.86	0.25	0.12		0.12	0.12		1.60							1.59		
ハブトガラス	0.12		1.10	0.86	0.12			2.23	0.25											
コゲラ	1.23	0.61	0.25	1.10	0.37			0.25	0.50											
エナガ	0.61	0.37		0.86		0.25	0.37	0.12	0.87											
キジバト	0.12		0.25	0.49	0.49	0.12		0.25	0.37	0.37										
キビタキ			0.74	0.61				0.37	0.62											
ヤブサメ			0.12					0.12	0.25	0.25								1.59		
ベニマシコ												0.60					1.59			
クキイタダキ							1.99													
シロハラ							0.25										1.59			
コジュケイ			0.37	0.49	0.25						0.60									
クロジ							1.49													
カケス	0.49	0.12				0.74														
カシラダカ		0.37									0.20	0.40								
アオゲラ				0.12	0.12	0.37			0.12											
イカル	0.12		0.12	0.25					0.25											
ルリビタキ		0.37					0.25													
ジョウビタキ												0.40								
ヒガラ							0.37													
ミソサザイ							0.37													
アオバト			0.25																	
アカゲラ	0.12	0.12																		
ホトトギス			0.25																	
カルガモ														0.20						
モズ											0.20									
オオルリ									0.12											
ウソ		0.12																		
カヤクグリ		0.12																		
キジ			0.12																	
オコウヨウ				0.12																
シメ		0.12																		
ハイタカ		0.12																		
合計	12.77	6.75	13.99	14.73	7.98	6.95	10.05	8.07	12.41	4.22	6.41	6.01	0.80	2.40	1.60		20.71	6.37	1.59	6.37

注 1：各環境の確認種の配列は、1 季当りの密度が大きい順とした。

注 2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

注 3：各種の密度は、1ha 当りの確認個体数を示す。

注 4：各種の密度は小数点第 3 位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-14(6) ラインセンサス法 調査結果（全調査ルート：環境別）

種名	広葉樹林	針葉樹林	草地	伐採跡地・竹林	調査地域での渡りの区分
メジロ	2.92	1.69		0.64	留鳥
ウグイス	0.91	0.27	0.48	1.59	留鳥
ヒヨドリ	1.47	1.69			留鳥
アオジ	0.61	0.19	1.50	5.58	冬鳥
ホオジロ	0.12		1.52	1.27	留鳥
シジュウカラ	1.15	0.87			留鳥
ヤマガラ	0.79	0.89			留鳥
ガビチョウ	0.61	0.07	0.32	0.32	留鳥
ハシブトガラス	0.44	0.50			留鳥
コゲラ	0.71	0.15			留鳥
エナガ	0.37	0.32			留鳥
キジバト	0.27	0.22			留鳥
キビタキ	0.27	0.20			留鳥
ヤブサメ	0.04	0.21		0.53	夏鳥
ベニマシコ			0.30	0.80	冬鳥
キクイタダキ		0.40			留鳥
シロハラ		0.12		0.80	冬鳥
コジュケイ	0.22		0.12		留鳥
クロジ		0.74			冬鳥
カケス	0.12	0.15			留鳥
カシラダカ	0.18		0.30		冬鳥
アオゲラ	0.05	0.10			留鳥
イカル	0.10	0.05			留鳥
ルリビタキ	0.18	0.12			冬鳥
ジョウビタキ			0.20		冬鳥
ヒガラ		0.07			冬鳥
ミソサザイ		0.19			冬鳥
アオバト	0.05				留鳥
アカゲラ	0.05				留鳥
ホトトギス	0.08				夏鳥
カルガモ			0.04		留鳥
モズ			0.04		留鳥
オオルリ		0.04			夏鳥
ウソ	0.06				冬鳥
カヤクグリ	0.06				冬鳥
キジ	0.02				留鳥
サンコウチョウ	0.04				夏鳥
シメ	0.06				冬鳥
ハイタカ	0.06				冬鳥
合計	12.05	9.26	4.83	11.52	—

注1：各環境の確認種の配列は、1季当りの密度が大きい順とし、前頁の表と同様とした。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

注3：各種の密度は、1ha・1季当りの確認個体数を示す。ただし、1季当りの確認個体数を算出するにあたっては、本来全調査時期で確認されない種もいることから、留鳥は全調査時期、夏鳥は春季、繁殖期及び夏季、冬鳥は秋季及び冬季の調査結果から平均値を算出した。

注4：各種の密度は小数点第3位を四捨五入した値を記載しているため、合計等の値が合わない場合がある。

表 8-1-4-15 ポイントセンサス法 調査結果

種名	P①					P②					P③					P④					合計	
	スギ・ヒノキ植林、ススキ-セイタカアワダチソウ群落、コナラ群落					スギ・ヒノキ植林、コナラ群落					ススキ-セイタカアワダチソウ群落、コナラ群落、先駆性木本群落					コナラ群落、スギ・ヒノキ植林、ススキ-セイタカアワダチソウ群落						
	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季		
ヒヨドリ	10	1	4	4	1	12		1	5	1	8		4	3	1	37	1	5	4		102	
メジロ	5	2	3	4	3	7		4	4	1	7	1	2	1	4	28	5	7	6	2	96	
ハシブトガラス	1		3	1		1		8	4	1	4	1	3			2		8	1	1	39	
キジバト	1		1	4	1				1	1			1	1	1	1			1	1	15	
コゲラ	1		1	1		1		1	2		1					1	2	1	3		15	
シジュウカラ	1		1	1	2			2	2				1			2	1	1			14	
ヤマガラ			1	1	1			3	4	1			1					2			14	
ウグイス	1		1	1									2	1	1			3	1		11	
ホオジロ											5	1	1	1	1	1			1		10	
エナガ							5	4													9	
キクイタダキ							6										2				8	
カケス	1									2	1					3					7	
キビタキ			1					1	1				2					2			7	
イカル				1					2									2	1		6	
ガビチョウ	1		1		1								1	1				1			6	
アオゲラ	1		1										1			1					4	
カワラヒワ											2			2							4	
ハシボソガラス											1		1	2							4	
アオバト																	1	1		1	3	
カシラダカ												3									3	
シメ											3										3	
アオジ												2									2	
アカゲラ							1									1					2	
コジュケイ													2								2	
ジョウビタキ												1					1				2	
ホトトギス			1										1								2	
オオムシクイ																		1			1	
キセキレイ																	1				1	
サシバ													1								1	
サンコウチョウ																			1		1	
ツミ						1															1	
トビ											1										1	
ノスリ											1										1	
ハイタカ											1										1	
ルリビタキ		1																			1	
合計	個体数	23	4	19	18	9	22	12	24	25	7	30	13	23	13	8	77	13	35	19	5	399
	種数	10	3	12	9	6	5	3	8	9	6	11	6	14	9	5	10	7	13	9	4	35

注：表中の数字は、確認個体数を示す。また、空欄は確認がなかったことを示す。

(c) 鳥類の状況（猛禽類）

a) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における猛禽類の生息状況を把握するため、定点調査及び営巣地特定のための林内踏査を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

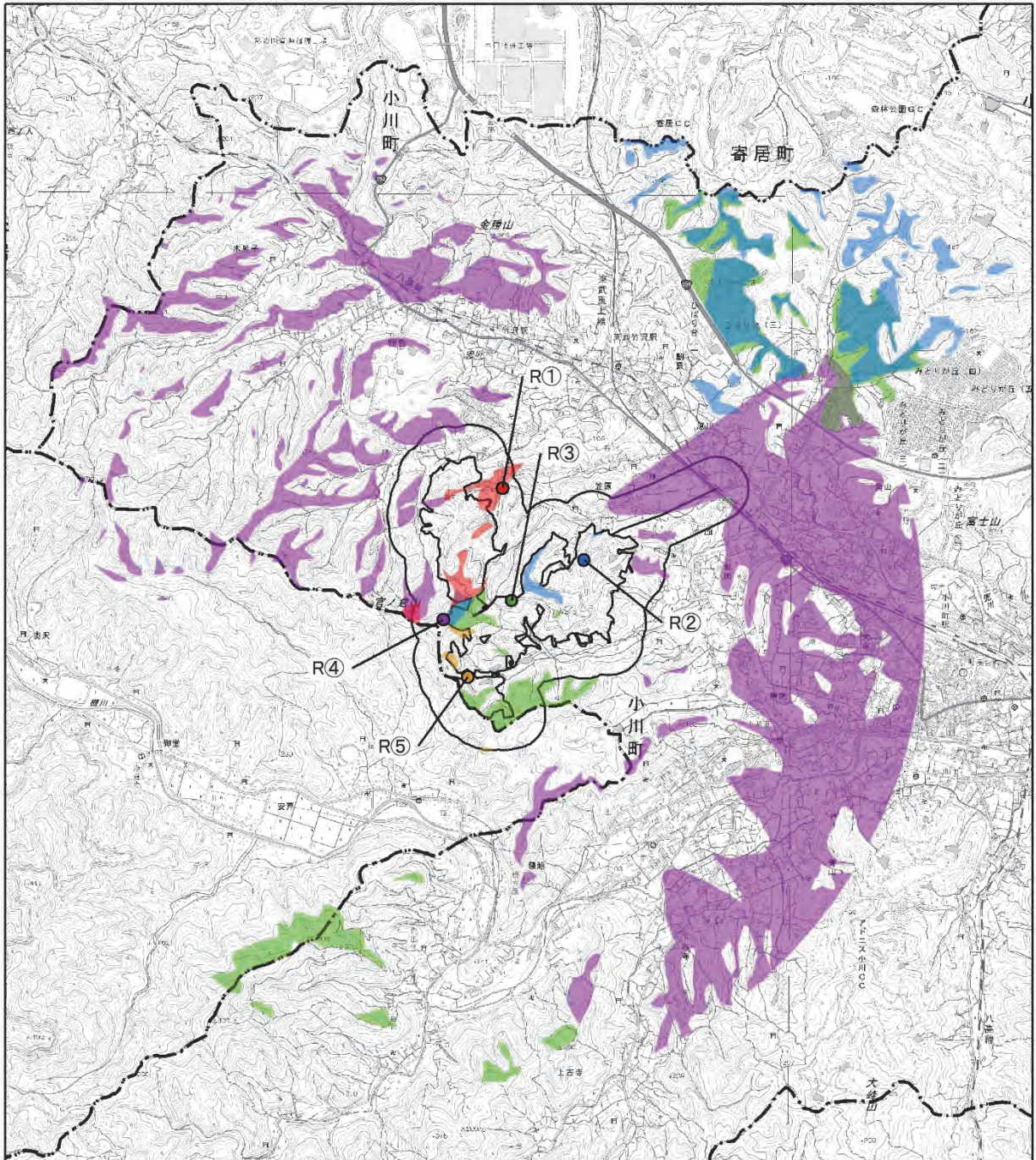
(7) 調査地域

調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺における猛禽類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺（200mの範囲以上を含む）を基本とし、猛禽類の出現状況に応じて適宜拡大した。

(4) 調査地点

定点調査の調査地点（5地点）及びその視野範囲は、図 8-1-4-3 に示すとおりである。

また、各調査地点の設定根拠は、表 8-1-4-16 に示すとおりであり、R①～R⑤の5地点を基本とした他、猛禽類の出現状況に応じて適宜移動定点を設定して補足した。林内踏査は、調査地域を基本とし、猛禽類の繁殖状況に応じて適宜拡大した。



凡 例

対象事業実施区域及び関連施設
 - - - - - 町村界

調査地域

【猛禽類調査地点及び視野範囲(調査地点より3km範囲)】

- 調査地点 R①
- 調査地点 R②
- 調査地点 R③
- 調査地点 R④
- 調査地点 R⑤



1:40,000

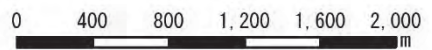


図 8-1-4-3

定点調査地点及び視野範囲

表 8-1-4-16(1) 猛禽類の定点調査地点の設定根拠




調査地点	設定根拠及び視野状況
R①	<p>・主に調査地域の北側上空を視認可能な地点であり、特に谷地形に沿った飛翔等、比較的低空を飛翔する猛禽類も確認できるため。</p>  <p style="text-align: center;">北                      西                      南                      東</p>
R②	<p>・主に調査地域の東側上空を視認可能な地点であり、特に谷地形に沿った飛翔等、比較的低空を飛翔する猛禽類も確認できるため。</p>  <p style="text-align: center;">北                      東                      南</p>  <p style="text-align: center;">南                      西                      北</p>
R③	<p>・主に調査地域の西側～東側上空を視認可能な地点であり、特に視野範囲が大きく猛禽類の行動範囲を広くカバーできるため。</p>  <p style="text-align: center;">東                      南</p>  <p style="text-align: center;">西                      北</p>

表 8-1-4-16(2) 定点調査地点の設定根拠

調査地点	設定根拠及び視野状況
R④	<p data-bbox="284 277 1436 331">・主に調査地域の西側～東側上空を視認可能な地点であり、特に視野範囲が大きく猛禽類の行動範囲を広くカバーできるため。</p>  <p data-bbox="421 629 448 658">東</p> <p data-bbox="963 629 991 658">南</p> <p data-bbox="336 958 363 987">西</p> <p data-bbox="900 958 927 987">北</p>
R⑤	<p data-bbox="284 987 1436 1041">・主に調査地域の南側上空を視認可能な地点であり、特に谷地形に沿った飛翔等、比較的低空を飛翔する猛禽類も確認できるため。</p>  <p data-bbox="628 1346 655 1375">北</p> <p data-bbox="1182 1346 1209 1375">東</p> <p data-bbox="325 1731 352 1760">東</p> <p data-bbox="1241 1731 1268 1760">南</p>

#### (ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-17 に示すとおりである。

定点調査は、調査地域に生息している可能性が考えられた猛禽類の繁殖期を含む1月～8月の8か月間を対象に、基本的に各月3日間とした。また、林内踏査は、猛禽類の繁殖への影響をできる限り低減するために、調査期間内の後半（対象種の巣内育雛期後半～巣外育雛期）にかけて適宜実施した。

表 8-1-4-17 猛禽類の調査期間

調査期間
令和2年1月21日～令和2年1月23日
令和2年2月17日～令和2年2月19日
令和2年3月16日～令和2年3月18日
令和2年5月7日～令和2年5月9日 令和2年5月27日～令和2年5月29日
令和2年6月15日～令和2年6月17日 令和2年6月29日～令和2年6月30日※
令和2年7月13日～令和2年7月15日
令和2年8月11日～令和2年8月13日

注：※6月調査によりツミが繁殖していると考えられたものの、6月調査までに確認された本種の例数が少なかったこと、繁殖していた場合、本種の雛は7月の調査時には雛が巣立ってしまう可能性が考えられたことから、詳細な行動範囲の確認等を目的として補足調査を実施した。

#### (イ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-18 に示すとおりである。

表 8-1-4-18 猛禽類の調査方法

調査項目	調査方法
定点調査	<ul style="list-style-type: none"><li>調査範囲に調査地点を5地点設定し、目視観察により、種名、個体数、確認時間、行動内容、個体の特徴、飛翔軌跡等を記録した。</li><li>使用機材は、倍率8倍～10倍程度の双眼鏡及び倍率20倍～60倍程度の望遠鏡とした。</li><li>調査時間は、基本的に8時～16時程度とした。</li></ul>
林内踏査	<ul style="list-style-type: none"><li>調査地域のうち、定点調査の結果から営巣地があると推定される範囲を対象とし、林内を踏査して猛禽類の営巣地の有無を確認した。営巣が確認された場合は、巣の位置、営巣木の樹種等を記録した。</li></ul>



(オ) 調査結果

定点調査の結果、表 8-1-4-19 に示すとおり 8 種の猛禽類が確認された。また、定点調査により繁殖している可能性が考えられたハチクマ、ツミ、サシバ及びノスリについて林内踏査を実施した結果、ハチクマ 1 ペア、ツミ 1 ペア、サシバ 3 ペア及びノスリ 1 ペアの営巣が確認された。

確認された猛禽類の確認状況の詳細は表 8-1-4-20 に、営巣地の位置は図 8-1-4-4 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-19 猛禽類調査結果一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期							
				1月	2月	3月	5月①	5月②	6月	7月	8月
1	タカ	タカ	ハチクマ				●	●	●	●	●
2			トビ	●	●	●	●	●	●	●	●
3			ツミ	●		●			●	●	
4			ハイタカ	●	●	●			●		●
5			オオタカ		●	●			●		
6			サシバ				●	●	●	●	●
7			ノスリ	●	●	●	●	●	●		●
8	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		●		●				
合計	2目	2科	8種	4種	5種	5種	5種	4種	7種	4種	5種

注1：分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8-1-4-20(1) 猛禽類の確認状況の詳細



種名	調査時期	確認例数	特徴的な行動等	繁殖状況
ハチクマ	1月	0	—	対象事業実施区域内で1ペア(Aペア)の繁殖が確認され、巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。繁殖期には本種の営巣地が確認されなかったものの、その後非繁殖期(落葉期)に本種が利用した可能性がある巣が確認された。
	2月	0	—	
	3月	0	—	
	5月①	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	5月②	3	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	6月	9	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	7月	4	餌持ち飛翔(1例)が確認された。	
	8月	40	ディスプレイ飛翔(10例)、餌持ち飛翔(2例)が確認された。	
トビ	1月	7	特徴的な行動等は確認されなかった。	繁殖は確認されなかった。
	2月	10	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	3月	8	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	5月①	3	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	5月②	3	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	6月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	7月	2	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	8月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
ツミ	1月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	対象事業実施区域外で1ペア(Aペア)の繁殖が確認された。巣立ち後の幼鳥は確認されなかったものの、7月に巣立ち直前と思われる雛を確認したことから、繁殖に成功したと考えられた。
	2月	0	—	
	3月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	5月①	0	—	
	5月②	0	—	
	6月	28	狩り(1例)、餌持ち飛翔(10例)が確認された。	
	7月	14	狩り(2例)、餌持ち飛翔(2例)が確認された。	
	8月	0	—	
ハイタカ	1月	9	特徴的な行動等は確認されなかった。	繁殖は確認されなかった。
	2月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	3月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	5月①	0	—	
	5月②	0	—	
	6月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	7月	0	—	
	8月	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
オオタカ	1月	0	—	繁殖は確認されなかった。
	2月	2	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	3月	2	ディスプレイ飛翔(1例)が確認された。	
	5月①	0	—	
	5月②	0	—	
	6月	2	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	7月	0	—	
	8月	0	—	


表 8-1-4-20(2) 猛禽類の確認状況の詳細


種名	調査時期	確認例数	特徴的な行動等	繁殖状況
サシバ	1月	0	—	対象事業実施区域内で2ペア(A及びBペア)、対象事業実施区域外で1ペア(Cペア)、合計3ペアの繁殖が確認され、いずれのペアも巣立ち後の幼鳥が確認されたことから、繁殖に成功した。
	2月	0	—	
	3月	0	—	
	5月①	41	ディスプレイ飛翔(1例)、探餌飛翔(4例)、狩り(2例)、餌持ち飛翔(3例)が確認された。	
	5月②	73	探餌飛翔(3例)、狩り(2例)、餌持ち飛翔(11例)が確認された。	
	6月	145	狩り(2例)、餌持ち飛翔(16例)が確認された。	
	7月	92	ディスプレイ飛翔(2例)、探餌飛翔(1例)、狩り(1例)、餌持ち飛翔(16例)が確認された。	
	8月	8	特徴的な行動等は確認されなかった。	
ノスリ	1月	25	狩り(1例)、探餌飛翔(6例)、巣材運び(1例)が確認された。	対象事業実施区域内で1ペア(Aペア)の繁殖が確認されたものの、幼鳥の確認はなく、繁殖に途中失敗したと考えられた。
	2月	17	探餌飛翔(2例)が確認された。	
	3月	35	ディスプレイ飛翔(1例)、探餌飛翔(6例)が確認された。	
	5月①	11	餌持ち飛翔(1例)が確認された。	
	5月②	34	探餌飛翔(1例)、餌持ち飛翔(1例)が確認された。	
	6月	16	探餌飛翔(1例)が確認された。	
	7月	0	—	
	8月	1	—	
ハヤブサ	1月	0	—	繁殖は確認されなかった。
	2月	2	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	3月	0	—	
	5月①	1	特徴的な行動等は確認されなかった。	
	5月②	0	—	
	6月	0	—	
	7月	0	—	
	8月	0	—	

# 動植物保全の観点から 非公開





























## 凡 例

 対象事業実施区域及び関連施設
  町村界

 調査地域

 希少猛禽類 営巣地

### 【植物群落】

 スダジイ群落	 スキ・セノキ植林	 チガヤ群落	 植栽地
 アカマツ垂高木	 ハジエンシユ植林	 シナダレス'カヤ群落	 造成地 等
 コナラ群落	 ミソソバ'群落	 ススキ-セイタカアワダチソウ群落	 住宅地 等
 ケヤキ群落	 ホントクダテ'群落	 ヨシ群落	 開放水域
 先駆性木本群落	 オオブ'クサ群落	 クサヨシ群落	
 アカメナキ'群落	 ヨモギ'群落	 オギ群落	
 アス'マネサ'サ群落	 セイタカアワダチソウ'ク'群落	 ヒシ群落	
 竹林	 北シバ'-エノコグ'サ群落	 畑地	
 アカマツ植林	 イシビエ群落	 水田	



1:15,000

0 100 200 300 400 500 m

図 8-1-4-4 猛禽類 営巣地

(d) 爬虫類の状況

a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における爬虫類の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(i) 調査方法

表 8-1-4-21 に示す文献その他資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-21 爬虫類に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種

(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた爬虫類は、表 8-1-4-22 に示すとおり  
1 目 6 科 11 種であった。

表 8-1-4-22 文献その他資料調査による爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準										文献・資料		
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2		
										低山帯	台地・ 丘陵帯					
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ												●	
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ						NT2	NT2	NT2				●	
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ						RT							●
4		タカチホヘビ	タカチホヘビ						VU	NT1	VU					●
5		ナミヘビ	シロマダラ						VU	NT1	VU					●
6			ジムグリ						NT1	NT2	NT1					●
7			アオダイショウ						NT2	NT2	NT2					●
8			シマヘビ						VU	EN	EN					●
9			ヒバカリ						NT1	NT1	NT2					●
10			ヤマカガシ						NT1	NT1	NT2			●	●	
11		クサリヘビ	ニホンマムシ						NT2	NT2	NT2					●
合計	1 目	6 科	11 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	10 種	9 種	9 種	0 種	1 種	11 種		

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

b) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における爬虫類の生息状況を把握するため、直接観察による現地調査を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における爬虫類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲とした。

(イ) 調査地点

爬虫類の調査（直接観察）は特定の調査地点を設定せず、調査地域全域を対象とした。

(ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-23 に示すとおりである。

表 8-1-4-23 爬虫類の調査期間

季節区分	調査期間
秋季	令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日
春季	令和 2 年 5 月 18 日～令和 2 年 5 月 21 日 令和 2 年 5 月 27 日
夏季	令和 2 年 8 月 3 日～令和 2 年 8 月 6 日

(イ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-24 に示すとおりである。

表 8-1-4-24 爬虫類の調査方法

調査項目	調査方法
直接観察	・調査地域全域を踏査し、爬虫類の痕跡（死骸、抜け殻）や目撃、捕獲により確認した生息種を記録した。

(オ) 調査結果

調査地域における爬虫類の確認種は、表 8-1-4-25 に示すとおり 2 目 6 科 9 種であった。

クサガメは開放水域（止水域）で、ヒガシニホントカゲ及びニホンカナヘビは日当たりの良い草地や人工構造物上で、ヘビ類は樹林、草地や湿った環境等で確認された。また、ニホンヤモリは建物の壁面に糞が付着しているのが確認された。

表 8-1-4-25 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			確認状況
				秋季	春季	夏季	
1	カメ	イシガメ	クサガメ		●		目撃
2	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		●		糞
3		トカゲ	ヒガシニホントカゲ		●	●	目撃
4		カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	●	目撃
5		ナミヘビ	ジムグリ	●		●	目撃、死骸
6			アオダイショウ	●	●	●	目撃、死骸
7			シマヘビ		●	●	目撃、抜け殻
8			ヤマカガシ	●	●	●	目撃
9		クサリヘビ	ニホンマムシ	●			目撃
合計	2 目	6 科	9 種	5 種	7 種	6 種	—

注：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019年11月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。



(e) 両生類の状況

a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における両生類の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(i) 調査方法

表 8-1-4-26 に示す文献その他資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-26 両生類に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種

(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた両生類は、表 8-1-4-27 に示すとおり  
2 目 6 科 13 種であった。

表 8-1-4-27 文献その他資料調査による両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料			
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2		
										低山帯	台地・ 丘陵帯					
1	有尾	サシヨウウオ	トウキョウサシヨウウオ				国内II	VU	EN	EN	EN		●	●		
2			ハコサシヨウウオ					NT1	VU					●		
3		イモリ	アカハライモリ					NT	CR	CR	CR	●		●		
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル						NT1	NT2	VU			●		
5			アマガエル	ニホンアマガエル											●	
6			アカガエル	ナガレタゴガエル						NT1	NT1					●
7				ニホンアカガエル						VU		VU				●
8				ヤマアカガエル						NT2	NT2	NT1				●
9				ウシガエル												●
10				ツチガエル						EN	EN	VU				●
11				トウキョウダルマガエル						NT	NT1	NT1	NT1			●
12			アオガエル	シレーゲルアオガエル							NT2	NT2	NT2			●
13				カジカガエル							NT1	NT2	NT1			●
合計	2 目	6 科	13 種	0 種	0 種	0 種	1 種	3 種	11 種	10 種	9 種	1 種	1 種	13 種		

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

b) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における両生類の生息状況を把握するため、直接観察による現地調査を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における両生類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲とした。

(イ) 調査地点

両生類の調査（直接観察）は特定の調査地点を設定せず、調査地域全域を対象とした。

(ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-28 に示すとおりである。

表 8-1-4-28 両生類の調査期間

季節区分	調査期間
秋季	令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日
早春季	令和 2 年 3 月 23 日～令和 2 年 3 月 25 日
春季	令和 2 年 5 月 18 日～令和 2 年 5 月 21 日 令和 2 年 5 月 27 日
夏季	令和 2 年 8 月 3 日～令和 2 年 8 月 6 日

(イ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-29 に示すとおりである。

表 8-1-4-29 両生類の調査方法

調査項目	調査方法
直接観察	・調査地域全域を踏査し、両生類の痕跡（死骸）や目撃、捕獲、鳴き声により確認した生息種を記録した。

(オ) 調査結果

調査地域における両生類の確認種は、表 8-1-4-30 に示すとおり 2 目 6 科 9 種であった。

樹林環境や草地・耕作地では、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエルが確認された。

水田、開放水域、たまり等の調査地域の様々な水域周辺では両生類全種が確認され、トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、アカガエル属、ウシガエル、シュレーゲルアオガエル 7 種の卵囊、卵塊及び幼生が確認された。

表 8-1-4-30 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期				確認状況
				秋季	早春季	春季	夏季	
1	有尾	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ		●	●		目撃、卵囊、死骸
2	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●	●	●	目撃、捕獲、卵塊、死骸、鳴き声
3		アマガエル	ニホンアマガエル	●		●	●	目撃、捕獲、鳴き声
4		アカガエル	ニホンアカガエル		●			捕獲、卵塊
5			ヤマアカガエル	●	●	●	●	捕獲
-		アカガエル属		●				目撃、卵塊
6		ウシガエル	●	●	●	●	目撃、捕獲、鳴き声	
7		トウキョウダルマガエル			●		鳴き声	
8		ヌマガエル	ヌマガエル			●	●	捕獲
9		アオガエル	シュレーゲルアオガエル		●	●		目撃、卵塊、鳴き声
合計	2 目	6 科	9 種	4 種	6 種	8 種	5 種	—

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

注 2：種又は亜種まで同定されなかったもので、同一の分類群に属する種が確認されている場合、種数を計数しなかった。

(f) 昆虫類の状況

a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における昆虫類の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(i) 調査方法

表 8-1-4-31 に示す文献その他資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-31 昆虫類に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種

(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた昆虫類は、表 8-1-4-32 に示すとおり12目259科2669種であった。

なお、文献その他資料調査結果の詳細は、「3-1 自然的状況 3-1-5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 (1)動物の生息状況 ⑤昆虫類等」に示したとおりである。

表 8-1-4-32 文献その他資料調査による昆虫類等確認種一覧

目名	科数	種数
カマキリ	1	4
カメムシ	56	346
ガロアムシ	1	1
コウチュウ	57	708
ゴキブリ	2	3
チョウ	36	726
トンボ	11	57
ナナフシ	2	3
ハエ	38	276
ハサミムシ	4	7
ハチ	35	454
バッタ	16	84
12目	259科	2669種

注：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁、1995)に準拠した。

## b) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における昆虫類の生息状況を把握するため、任意採集（スウィーピング法、ビーティング法、見つけ採り法）、直接観察、トラップ法（ベイトトラップ、ライトトラップ）及び夜間調査（ホタル類を対象とした調査）による現地調査を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

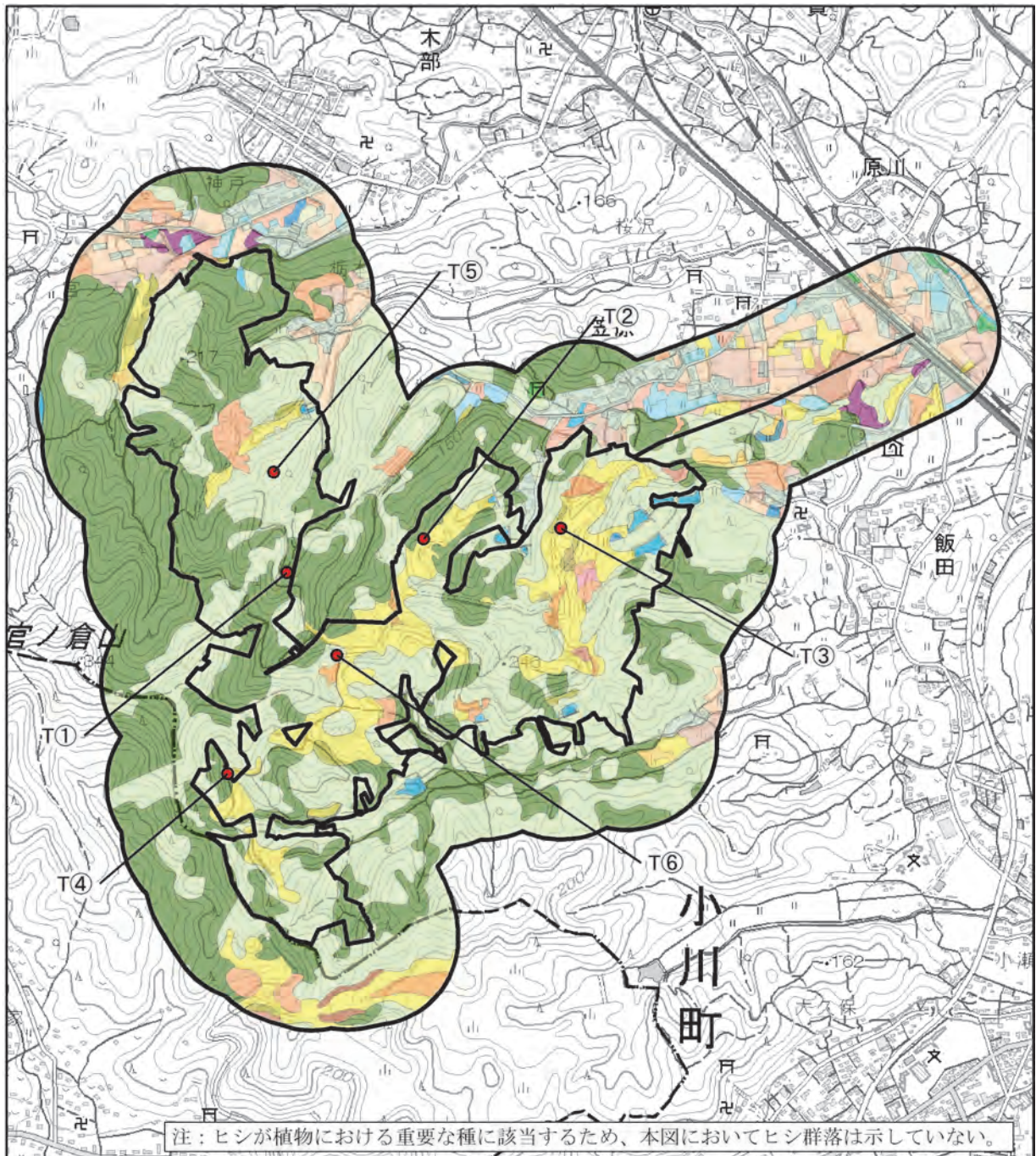
## (7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における昆虫類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲とした。

## (イ) 調査地点

昆虫類の調査のうち、任意採集、直接観察及び夜間調査は特定の調査地点を設定せず、調査地域全域を対象とした。トラップ法の調査地点（ベイトトラップ 6 地点、ライトトラップ 6 地点）は、図 8-1-4-5 に示すとおりである。

また、トラップ法の調査地点の環境及び設定根拠は、表 8-1-4-33 に示すとおりである。



- 凡 例
- 対象事業実施区域及び関連施設
  - 町村界
  - 調査地域
  - 昆虫類 トラップ法調査地点(T①～T⑥:6地点)

【植物群落】

<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; border: 1px solid black;"></span> スダジイ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; border: 1px solid black;"></span> スキ・ヒノキ植林	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFF9C4; border: 1px solid black;"></span> チガヤ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #E0B090; border: 1px solid black;"></span> 植栽地
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #E0B090; border: 1px solid black;"></span> アカマツ垂高木	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8BC34A; border: 1px solid black;"></span> ハリエシノ植林	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFCC80; border: 1px solid black;"></span> シダレス'カヤ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #A9A9A9; border: 1px solid black;"></span> 造成地 等
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #C8E6C9; border: 1px solid black;"></span> コナラ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> ミゾソバ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFF176; border: 1px solid black;"></span> ススキ・セイタカアワダチソウ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #C8E6C9; border: 1px solid black;"></span> 住宅地 等
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; border: 1px solid black;"></span> ケヤキ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> ホントクダ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> ヨシ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ADD8E6; border: 1px solid black;"></span> 開放水域
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8BC34A; border: 1px solid black;"></span> 先駆性木本群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF9800; border: 1px solid black;"></span> オオバクサ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> クサヨシ群落	
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> アカメヤナキ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #E91E63; border: 1px solid black;"></span> ヨモギ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> オギ群落	
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFD54F; border: 1px solid black;"></span> アスマネサ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #E91E63; border: 1px solid black;"></span> セイタカアワダチソウ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #42A5F5; border: 1px solid black;"></span> ヒシ群落	
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FF9800; border: 1px solid black;"></span> 竹林	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #E91E63; border: 1px solid black;"></span> シシバ・エノコログサ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #FFCC80; border: 1px solid black;"></span> 畑地	
<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #8BC34A; border: 1px solid black;"></span> アカマツ植林	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #E91E63; border: 1px solid black;"></span> イシヒエ群落	<span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ADD8E6; border: 1px solid black;"></span> 水田	

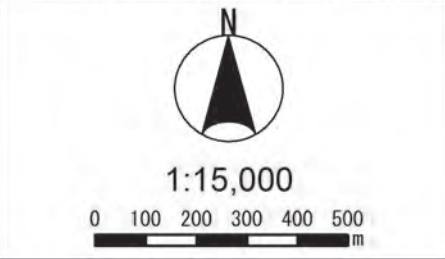


図 8-1-4-5 昆虫類調査地点

表 8-1-4-33 昆虫類の調査地点の環境及び設定根拠

調査区分	地点 No.	主な環境	設定根拠
トラップ法	T①	対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に北側を代表する地点。北側はスギ・ヒノキ植林が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	T②	対象事業実施区域内のススキ-セイタカアワダチソウ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のススキ-セイタカアワダチソウ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に東側を代表する地点。東側はススキ-セイタカアワダチソウ群落等の草地在り、代表的な植生であること、本地点は林縁部であり、T③と特徴が異なることから選定した。</li> </ul>
	T③	対象事業実施区域内のススキ-セイタカアワダチソウ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のススキ-セイタカアワダチソウ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に東側を代表する地点。東側はススキ-セイタカアワダチソウ群落等の草地在り、代表的な植生であること、本地点は特に広範囲に開けており、T②と特徴が異なることから選定した。</li> </ul>
	T④	対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のスギ・ヒノキ植林における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に南側を代表する地点。南側はスギ・ヒノキ植林やコナラ群落がモザイク状に存在する点が特徴的であることから、そのうち前者を選定した。</li> </ul>
	T⑤	対象事業実施区域内のコナラ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のコナラ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に北側を代表する地点。北側はコナラ群落が広範囲を占めており、代表的な植生であることから選定した。</li> </ul>
	T⑥	対象事業実施区域内のコナラ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域内のコナラ群落における哺乳類の生息状況を把握するため。</li> <li>調査地域のうち、主に南側を代表する地点。南側はスギ・ヒノキ植林やコナラ群落がモザイク状に存在する点が特徴的であることから、そのうち後者を選定した。</li> </ul>



(ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-34 に示すとおりである。

表 8-1-4-34 昆虫類の調査期間

季節区分	調査区分	調査期間
秋季	任意採集	令和元年 10 月 15 日～令和元年 10 月 18 日
	直接観察	
	トラップ法	
春季	任意採集	令和 2 年 5 月 17 日～令和 2 年 5 月 18 日 令和 2 年 5 月 21 日～令和 2 年 5 月 22 日
	直接観察	
	トラップ法	
夏季	任意採集	令和 2 年 8 月 3 日～令和 2 年 8 月 6 日
	直接観察	
	トラップ法	
	夜間調査（ホタル類）	令和 2 年 6 月 15 日

(エ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-35 に示すとおりである。

表 8-1-4-35 昆虫類の調査方法

調査項目	調査方法
任意採集	・ 調査地域全域を踏査し、捕虫網を用いて草本類に生息している昆虫類を草ごとすくい取るスウィーピング法、木本類の枝等に生息している昆虫類を叩き落とすビーティング法及び目視により確認した昆虫類を採集する見つけ採り法により調査を実施した。
直接観察	・ トンボ類、チョウ類、セミ類、バッタ類等の大型で目立つ種や鳴き声を出す種等、採集することができなくても識別ができる種を対象に確認種を記録した。
トラップ法	・ ベイトトラップは、調査地点を 6 地点設定し、各地点に誘因餌を入れてプラスチックコップ 20 個を 1 昼夜設置し、昆虫類を採集した。 ・ ライトトラップは、調査地点を 6 地点設定し、各地点にブラックライトを付けたボックス式の採集装置 1 台を 1 昼夜設置し、昆虫類を採集した。
夜間調査（ホタル類）	・ 調査地域全域を踏査し、ホタル類を確認した*。

注：\*夜間調査は、事故防止の観点から車両の走行が可能な箇所等、安全を確保できる箇所を中心に実施した。

## (オ) 調査結果

調査地域における昆虫類の調査結果は、表 8-1-4-36 に示すとおり 18 目 214 科 845 種であった。

昆虫類の主な確認種は、表 8-1-4-37 に示すとおりである。樹林環境では、モリチャバネゴキブリ、マダラカマドウマ、センチコガネ、オオスズメバチ、ムラサキシジミ等の生息が確認され、草地環境ではウスバキトンボ、ツチイナゴ、ツマグロオオヨコバイ、ナミテントウ、ラミーカミキリ、イチモンジセセリ等の生息が多くみられた。開放水域である水辺環境では、ギンヤンマ等のトンボ類やモンキマメゲンゴロウ、トゲバゴマフガムシなどのコウチュウ類の生息が確認された。訪花性の昆虫類としてコアオハナムグリ、キムネクマバチ、ナミハナアブ、イチモンジセセリ等の生息も確認された。

調査方法別の調査結果は、表 8-1-4-38～表 8-1-4-40 に示すとおりであり、任意採集・直接観察による確認が 18 目 180 科 588 種、トラップ調査のうちベイトトラップ法が 9 目 49 科 116 種、ライトトラップ法が 12 目 97 科 262 種であった。また、夜間調査ではゲンジボタル及びヘイケボタルが確認された。

なお、昆虫類確認種の詳細は、「巻末資料」に示すとおりである。

表 8-1-4-36 昆虫類調査結果一覧(目数・科数・種数)

目名	調査時期						合計	
	秋季		春季		夏季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シミ	1	1	1	1	1	1	1	1
カゲロウ			2	2			2	2
トンボ	4	10	7	15	9	25	9	36
カワゲラ	1	1	1	1			2	2
ゴキブリ	1	1	1	1	2	2	2	2
カマキリ	1	3			1	3	1	3
シロアリ	1	1					1	1
バッタ	11	31	9	19	11	32	15	51
ナナフシ			1	1			1	1
ハサミムシ	1	1			1	1	2	2
カメムシ	26	56	24	47	27	56	39	117
アミメカゲロウ	2	5	4	6	3	3	5	13
コウチュウ	20	54	36	152	31	117	46	267
ハチ	7	28	13	36	8	39	15	63
シリアゲムシ	1	1	1	1			1	1
ハエ	23	30	28	49	25	36	35	76
トビケラ	2	2	21	129	20	89	10	13
チョウ	14	41	9	12	1	1	27	194
18 目	116 科	266 種	158 科	472 種	140 科	405 種	214 科	845 種

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に準拠した。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

表 8-1-4-37 昆虫類の主な確認種一覧

目名	科数	種数	主な確認種
シミ	1	1	イシノミ科
カゲロウ	2	2	ヒメシロカゲロウ、オオフタオカゲロウ
トンボ	9	36	オオアオイトトンボ、ホソミイトトンボ、ギンヤンマ、ミルンヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、マユタテアカネ、ミヤマアカネ、ウスバキトンボ等
カワゲラ	2	2	ジュッポンオナシカワゲラ、フタツメカワゲラ属
ゴキブリ	2	2	ヤマトゴキブリ、モリチャバネゴキブリ
カマキリ	1	3	ハラビロカマキリ、コカマキリ、オオカマキリ
シロアリ	1	1	ヤマトシロアリ
バッタ	15	51	マダラカマドウマ、ハラオカメコオロギ、ウスグモスズ、アオマツムシ、Myrmecophilus 属、アシグロツユムシ、ヒメギス、クビキリギス、オンブバッタ、ツチイナゴ、クルマバッタモドキ、トゲヒシバッタ、ヒメヒシバッタ等
ナナフシ	1	1	ナナフシモドキ
ハサミムシ	2	2	ヒゲジロハサミムシ、コブハサミムシ
カメムシ	39	117	ツクツクボウシ、ツマグロオオヨコバイ、シロヒメヨコバイ、テラウチウンカ、ヒラタグンバイウンカ、アオバハゴロモ、アミガサハゴロモ、アメンボ、ヒメセダカカスミカメ、ハナカメムシ科、アワダチソウグンバイ、ヒゲナガカメムシ、ヒナナガカメムシ、チャイロナガカメムシ、オオメナガカメムシ、ムラサキナガカメムシ、ヒメホシカメムシ、ブチヒメヘリカメムシ、オオツマキヘリカメムシ、マルカメムシ、エビイロカメムシ、セアカツノカメムシ等
アミメカゲロウ	5	13	ヒロバカゲロウ、チャバネヒメカゲロウ、ヤマトクサカゲロウ、ウスバカゲロウ、ツノトンボ等
コウチュウ	46	267	クロオサムシ、ニッコウヒメナガゴミムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、アトボシアオゴミムシ、モンキマメゲンゴロウ、トゲバゴマフガムシ、ヨツボシモンシデムシ、オオアカバハネカクシ、センチコガネ、コイチャコガネ、コアオハナムグリ、クズノチビタマムシ、サビキコリ、クシコメツキ、マルキマダラケシキスイ、ヨツボシテントウダマシ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ハナノミ科、ホンドクロオオクチキムシ、ヒトオビアラゲカミキリ、ラミーカミキリ、ドウガネツヤハムシ、ムナグロツヤハムシ、サメハダツブノミハムシ、マメホソクチゾウムシ、ウスモンノミゾウムシ、キクイムシ科等
ハチ	15	63	クロムネハバチ、ヒメバチ科、オオハリアリ、キイロシリアゲアリ、アミメアリ、ムネアカオオアリ、クロヤマアリ、オオスズメバチ、キイロスズメバチ、サトジガバチ、コハナバチ属、キムネクマバチ等
シリアゲムシ	1	1	ヤマトシリアゲ
ハエ	35	76	ヒメガガンボ科、Nephrotoma 属、ナミキノコバエ科、クロバネキノコバエ科、タマバエ科、ヌカカ科、ホンセスジユスリカ、ネグロミズアブ、シオヤアブ、アシナガバエ科、ノミバエ科、ホソヒメヒラタアブ、シマハナアブ、ヒラヤマシマバエ、ヒガシヒゲナガヤチバエ、ショウジョウバエ属、イエバエ科、ツマグロキンバエ、ヤドリバエ科等
トビケラ	10	13	ウルマーシマトビケラ、オオカクツツトビケラ、コバントビケラ、ヨツメトビケラ等
チョウ	27	194	スギヒメハマキ、オビカクバネヒゲナガキバガ、シロモンノメイガ、シロマダラノメイガ、ミツテンノメイガ、アカシマメイガ、ヒメキマダラセセリ、イチモンジセセリ、カラスアゲハ、アゲハ、キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ルリシジミ、ツマグロヒョウモン、コムスジ、ヒメアカタテハ、アカタテハ、クロコノマチョウ、ウスギヌカギバ、アシプトチズモンアオシヤク、ビロードナミシヤク、アトグロアミメエダシヤク、フトフタオビエダシヤク、クロスジコバガ、フサキバアツバ、オオアカマエアツバ、アケビコノハ、ウンモンクチバ、カラスヨトウ、ノコメセダカヨトウ等
18 目	214 科	845 種	—

注：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に準拠した。

表 8-1-4-38 任意採集・直接観察 調査結果一覧(目数・科数・種数)

目名	調査時期						合計	
	秋季		春季		夏季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シミ	1	1	1	1	1	1	1	1
カゲロウ			1	1			1	1
トンボ	4	10	7	15	9	25	9	36
カワゲラ	1	1	1	1			2	2
ゴキブリ	1	1	1	1			1	1
カマキリ	1	3			1	3	1	3
シロアリ	1	1					1	1
バッタ	11	27	8	17	10	27	15	46
ナナフシ			1	1			1	1
ハサミムシ	1	1					1	1
カメムシ	26	51	22	41	24	44	37	101
アミメカゲロウ	2	5	3	3	3	3	5	11
コウチュウ	16	41	27	120	21	60	36	185
ハチ	7	18	12	28	8	27	15	51
シリアゲムシ	1	1	1	1			1	1
ハエ	18	24	22	38	17	27	30	65
トビケラ			6	6			6	6
チョウ	12	29	11	50	9	48	17	75
18目	103科	214種	124科	324種	103科	265種	180科	588種

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に準拠した。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

表 8-1-4-39 バイトトラップ 調査結果一覧(目数・科数・種数)

目名	調査時期						合計	
	秋季		春季		夏季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シミ	1	1	1	1	1	1	1	1
ゴキブリ	1	1	1	1	2	2	2	2
バッタ	3	6	4	4	3	7	6	11
ハサミムシ					1	1	1	1
カメムシ	1	2	3	3	3	3	5	8
コウチュウ	6	14	11	21	13	34	18	54
ハチ	2	14	1	11	1	16	2	23
ハエ	6	6	9	10	4	4	12	13
チョウ	1	2	2	1	1	1	2	3
9目	21科	46種	32科	52種	29科	69種	49科	116種

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に準拠した。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

表 8-1-4-40 ライトトラップ 調査結果一覧(目数・科数・種数)

目名	調査時期						合計	
	秋季		春季		夏季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シミ					1	1	1	1
カゲロウ			1	1			1	1
カワゲラ			1	1			1	1
ゴキブリ			1	1	1	1	2	2
バッタ	2	2	1	1	5	5	6	7
カメムシ	4	4	4	4	7	12	11	17
アミメカゲロウ			1	3			1	3
コウチュウ	4	4	20	30	15	33	26	62
ハチ	2	5	3	4	1	10	3	13
ハエ	12	13	16	19	10	11	20	26
トビケラ	2	2	5	7	1	1	6	8
チョウ	6	13	16	82	12	35	19	121
12目	32科	43種	69科	153種	53科	109種	97科	262種

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に準拠した。

注2：表中の空欄は、確認がなかったことを示す。

(g) 魚類の状況

a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における魚類の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(イ) 調査方法

表 8-1-4-41 に示す文献その他資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-41 魚類に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種

(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた魚類は、表 8-1-4-42 に示すとおり7目15科36種であった。

表 8-1-4-42(1) 文献その他資料調査による魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準							文献・資料		
				I	II	III	IV	V	VI	VII	1	2	
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類					VU	CR		●		
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ					EN	NT2			●	
3	コイ	コイ	コイ								●	●	
4			ゲンゴロウブナ										●
5			キンブナ					VU	VU			●	●
6			ギンブナ									●	●
7			タイリクバラタナゴ									●	●
8			オイカワ									●	●
9			カワムツ									●	●
10			ヌマムツ									●	
-			カワムツ属									●	
11			アブラハヤ									●	●
12			ウグイ									●	●
13			モツゴ									●	●
14			タモロコ									●	●
15			カマツカ									●	●
16			ニゴイ									●	●
17			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ					NT			●
18	カラドジョウ												●
19	シマドジョウ種群											●	●
20	フクドジョウ	ホトケドジョウ					EN	CR		●	●		
21	ナマズ	ギギ	ギバチ					VU			●	●	

表 8-1-4-42(2) 文献その他資料調査による魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準							文献・資料			
				I	II	III	IV	V	VI	VII	1	2		
22	ナマズ	ナマズ	ナマズ								●	●		
23	サケ	キュウリウオ	ワカサギ						NT1			●		
24		アユ	アユ								●	●		
25		サケ	アメマス									●		
26			ニッコウイワナ					DD	VU			●	●	
27			ニジマス									●	●	
28			ヤマメ						NT	VU			●	●
29		ダツ	メダカ	ミナミメダカ						VU	NT2		●	
30	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル									●	●	
31			オオクチバス										●	●
32		カジカ	カジカ(大卵型)						NT				●	●
-			カジカ属										●	
33		ハゼ	ヌマチチブ											●
34			トウヨシノボリ類										●	●
-			ヨシノボリ属										●	
35			ジュズカケハゼ							※			●	●
36		タイワンドジョウ	カムルチー										●	
合計	7 目	15 科	36 種	0 種	0 種	0 種	0 種	11 種	8 種	0 種	29 種	33 種		

注1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2019年11月、日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

注2：種又は亜種まで同定されなかったもので、同一の分類群に属する種が確認されている場合、種数を計数しなかった。

注3：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」(昭和25年5月30日公布、同日施行)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」(1955年10月1日公布、同日施行)に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」(1961年2月28日公布、同日施行)に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行)

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年、環境省)における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」(2018年、埼玉県)における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000年、埼玉県)に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注4：※について、ジュズカケハゼは、2010年に4種に分類され、「ジュズカケハゼ(広域分布種)」と「ムサシノジュズカケハゼ(関東固有種)」が関東地方に分布している。これら2種の選定基準は、以下のとおりである。

ジュズカケハゼ(広域分布種)：NT、ムサシノジュズカケハゼ(関東固有種)：EN

## b) 現地調査

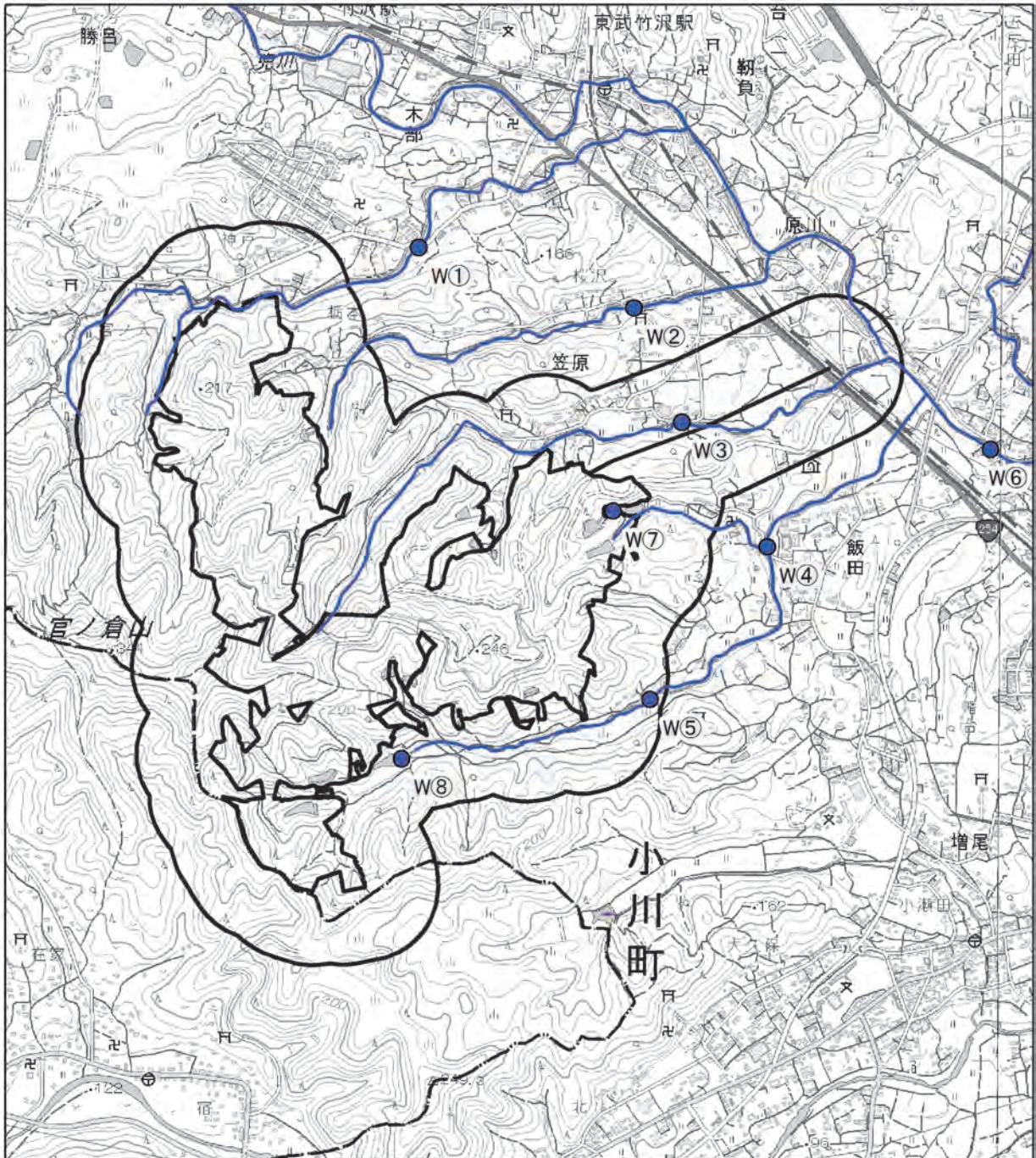
対象事業実施区域及びその周辺における魚類の生息状況を把握するため、捕獲及び直接観察による現地調査を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

### (7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における魚類の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺の河川とした。

### (イ) 調査地点

捕獲及び直接観察による調査地点（8地点）は、図 8-1-4-6 に示すとおりである。各調査地点の環境及び設定根拠は、表 8-1-4-43 に示すとおりである。



- 凡 例
- 対象事業実施区域及び関連施設
  - 町村界
  - 調査地域
  - 河川
  - 魚類・底生動物 調査地点(W①～W⑧):8地点



1:17,500

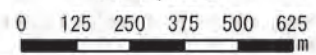









図 8-1-4-6

魚類・底生動物調査地点



表 8-1-4-43 魚類の調査地点の環境及び設定根拠

調査区分	地点 No.	対象 河川	設定根拠	調査地点の概況
捕獲 直接観察	W①	木部川	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>調査地域の水域のうち、木部川を代表する地点。基本的にコンクリート張りの河川であることから、底質が存在し植生が見られる等、多様な生物の生息が期待できる地点を選定した。</li> </ul>	
	W②	桜沢川	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>調査地域の水域のうち、桜沢川を代表する地点。基本的にコンクリート張りの河川であることから、底質が存在し植生が見られる等、多様な生物の生息が期待できる地点を選定した。</li> </ul>	
	W③	笠原川	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>調査地域の水域のうち、笠原川を代表する地点。基本的にコンクリート張りの河川であることから、底質が存在し植生が見られる等、多様な生物の生息が期待できる地点を選定した。</li> </ul>	
	W④	飯田川	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>調査地域の水域のうち、飯田川を代表する地点。基本的にコンクリート張りの河川であることから、底質が存在し植生が見られる等、多様な生物の生息が期待できる地点を選定した。</li> </ul>	
	W⑤		<ul style="list-style-type: none"> <li>飯田川には途中で合流する小水路があり、この水路においても濁水による影響が考えられることから、調査地点は合流部 (W④) とその上流 (W⑤) の2地点を選定した。</li> </ul>	
	W⑥	兜川	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>W①～W⑤の川が合流する兜川の地点。全ての川が合流した下流のうち、底質が存在し植生が見られる等、多様な生物の生息が期待できる地点を選定した。</li> </ul>	
	W⑦	北久保沼	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>農業用ため池である北久保沼の地点。水深が深いため、現地調査は安全を確保できる範囲で実施した。</li> </ul>	
	W⑧	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用ため池ではないものの、本事業の実施に伴い発生した濁水が調整池での貯留後に流れ込む可能性があるため。</li> <li>計画区域南側の堰堤による止水域。水深が深いため、現地調査は安全を確保できる範囲で実施した。</li> </ul>	

(ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-44 に示すとおりである。

表 8-1-4-44 魚類の調査期間

季節区分	調査区分	調査期間
春季	捕獲	令和2年5月13日～令和元年5月15日
	直接観察	
秋季	捕獲	令和2年9月7日～令和2年9月9日
	直接観察	

(エ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-45 に示すとおりである。

表 8-1-4-45 魚類の調査方法

調査項目	調査方法
捕獲	<ul style="list-style-type: none"><li>・調査地点の環境特性に応じて、投網、サデ網、タモ網、小型定置網、セルビン、かご網を適宜併用し、捕獲した魚種、個体数等を記録した。また、調査は調査地点を含む約100mの範囲で行った。</li><li>・1地点あたりの調査努力量は、投網は5投程度、サデ網・タモ網は60分程度、小型定置網は1昼夜、セルビン・かご網は60分程度とした。</li></ul>
直接観察	<ul style="list-style-type: none"><li>・コイ等の大型で目視等によって明らかに識別ができる種を対象に確認種を記録した。</li></ul>

(オ) 調査結果

対象事業実施区域周辺の水域における魚類の確認種は、表 8-1-4-46 に示すとおり 3 目 6 科 17 種であった。

オイカワ、ヌマムツ、アブラハヤ等、中流河川に生息する一般的な魚類が確認された他、モツゴやタモロコ等、小規模な支流河川に生息する小型の魚類が確認された。また、止水域ではブルーギルやオオクチバス等の外来種が確認された。

表 8-1-4-46 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				春季	秋季	
1	コイ	コイ	コイ (飼育型)		●	
2			ギンブナ		●	
3			オイカワ	●	●	
4			ヌマムツ	●	●	
5			アブラハヤ	●	●	
6			ウグイ		●	
7			モツゴ		●	
8			タモロコ	●	●	
9			ドジョウ	ドジョウ	●	●
10				ヒガシシマドジョウ	●	●
11			フクドジョウ	ホトケドジョウ	●	●
12	ナマズ	ギギ	ギバチ	●	●	
13	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	●	●	
14			オオクチバス	●	●	
15			コクチバス	●	●	
16		ハゼ	トウヨシノボリ類		●	
-			ヨシノボリ属	●	●	
17			ムサシノジュズカケハゼ		●	
合計	3 目	6 科	17 種	12 種	17 種	

注1：分類、配列等は原則として「令和元年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和元年、国土交通省）に準拠した。

注2：種又は亜種まで同定されなかったもので、同一の分類群に属する種が確認されている場合、種数を計数しなかった。

(h) 底生動物の状況

a) 文献その他の資料調査

対象事業実施区域及びその周辺における底生動物の生息状況を把握するため、文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺とした。

(i) 調査方法

表 8-1-4-47 に示す文献その他の資料から、対象事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を調査地域の生息種として抽出した。

表 8-1-4-47 底生動物に係る文献その他の資料

No.	文献及び資料名
1	「第5回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局生物多様性センターHP)
2	「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」(平成12年3月、小川町)のうち、 「第2部 小川町の動物相」における記載種

(ウ) 調査結果

文献その他資料調査により生息の情報が得られた底生動物等は、表 8-1-4-48 に示すとおり 6 目 10 科 14 種であった。

表 8-1-4-48 文献その他資料調査による底生動物等確認種一覧

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準										文献・資料	
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2	
										低山帯	台地・ 丘陵帯				
1	新生腹足	タニシ	マルタニシ						VU	VU		VU			●
2			ヒメタニシ												●
3		カワニナ	カワニナ												●
4	イシガイ	イシガイ	イシガイ						NT2		NT2			●	
5			ドブガイ						NT2		NT2			●	
6	マルマガイ	シジミ	マシジミ						VU					●	
7	カブトエビ	カブトエビ	アジアカブトエビ											●	
8			アメリカカブトエビ											●	
9	ホウネンエビ	ホウネンエビ	ホウネンエビ											●	
10	エビ	ヌマエビ	ヌカエビ						NT2					●	
11		テナガエビ	テナガエビ											●	
12			スジエビ											●	
13		アメリカザリガニ	アメリカザリガニ											●	
14		サワガニ	サワガニ							NT2					●
合計		6 目	10 科	14 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種	5 種	0 種	3 種	0 種	0 種	14 種

注1：分類、配列等は原則として「令和元年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和元年、国土交通省）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

## b) 現地調査

対象事業実施区域及びその周辺における底生動物の生息状況を把握するため、任意採取及び直接観察による現地調査を実施し、情報の収集並びに当該情報の整理・解析を行った。

### (7) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺における底生動物の生息状況を把握するため、調査地域は対象事業実施区域及びその周辺の河川とした。

### (イ) 調査地点

捕獲法による調査地点は、魚類の調査地点と同様とした（8地点）。調査地点は図 8-1-4-6 に、各調査地点の環境及び設定根拠は表 8-1-4-43 に、それぞれ示したとおりである。

### (ウ) 調査期間

調査期間は、表 8-1-4-49 に示すとおりである。

表 8-1-4-49 底生動物の調査期間

季節区分	調査区分	調査期間
早春季	任意採取	令和2年3月23日～令和2年3月25日
	直接観察	
夏季	任意採取	令和2年8月24日～令和2年8月26日
	直接観察	

### (イ) 調査方法

調査方法は、表 8-1-4-50 に示すとおりである。

表 8-1-4-50 底生動物の調査方法

調査項目	調査方法
任意採取	・ 定性採集法により水生植物が生育しているような場所、水際、水中に浮石や砂礫、落葉がたまっている場所等を対象として、タモ網（Dフレームネット）を採集場所の下流部に固定し、上流部を足でかき回しながら網に追い込むようにして採集した。
直接観察	・ ザリガニ等の大型で目視等によって明らかに識別ができる種を対象に確認種を記録した。

(オ) 調査結果

対象事業実施区域周辺の水域における底生動物の確認種は、表 8-1-4-51 に示すとおり 20 目 78 科 151 種であった。

ハグロトンボ、ヤマサナエ等のトンボ類やミヤマタニガワカゲロウ属等のカゲロウ類、ヒロアタマナガレトビケラ等のトビケラ類といった河川上流～中流の溪流環境に生息する種が多く確認された。

表 8-1-4-51(1) 底生動物調査結果一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				早春季	夏季	
1	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	●	●	
2			アメリカツノウズムシ		●	
3	新生腹足	タニシ	ヒメタニシ	●		
4			カワニナ	●	●	
5			チリメンカワニナ		●	
6	汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ		●	
7			ハブタエモノアラガイ	●	●	
8			サカマキガイ	●	●	
9			カワコザラガイ	●	●	
10	マルスダレガイ	シジミ	シジミ属	●	●	
11			マメシジミ		●	
12	ナガミミズ	ナガミミズ	ナガミミズ科	●		
13	イトミミズ	ミズミミズ	エラオイミズミミズ属		●	
14			エラミミズ	●	●	
15			ヨゴレイトミミズ属	●		
16			クロオビミズミミズ	●		
-			ミズミミズ科	●	●	
17	ツリミミズ	フトミミズ	フトミミズ科	●	●	
18	吻蛭	ヒラタビル	ヒラタビル科	●		
19	吻無蛭	イシビル	シマイシビル	●	●	
20			ピロウドイシビル	●		
-			イシビル科		●	
21		ナガレビル	キバビル	●	●	
22	ヨコエビ	ハマトビムシ	ハマトビムシ科	●		
23			マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ	●	●
24	ワラジムシ	ミズムシ (甲)	ミズムシ (甲)	●	●	
25	エビ	ヌマエビ	カワリヌマエビ属	●	●	
26			ヌカエビ	●	●	
27			テナガエビ	スジエビ	●	●
28			アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	●	●
29			サワガニ	サワガニ	●	●
30	カゲロウ (蜻蛉)	トビイロカゲロウ	ナミトビイロカゲロウ	●		
31			キイロカワカゲロウ		●	
32			フタスジモンカゲロウ	●	●	
33			モンカゲロウ	●	●	
34			ヒメシロカゲロウ	ヒメシロカゲロウ属		●
35			マダラカゲロウ	オオクママダラカゲロウ	●	
36				クロマダラカゲロウ	●	
37				ヨシノマダラカゲロウ	●	
38				シリナガマダラカゲロウ	●	
39				アカマダラカゲロウ	●	●
40				エラブタマダラカゲロウ	●	●
41			ヒメフタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属	●	
42			コカゲロウ	ヨシノコカゲロウ	●	
43				フタモンコカゲロウ	●	●
44				シロハラコカゲロウ	●	
45				フタバカゲロウ属	●	●
46	ウスイロフトヒゲコカゲロウ	●		●		

表 8-1-4-51(2) 底生動物調査結果一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				早春季	夏季	
47	カゲロウ (蜉蝣)	フタオカゲロウ	フタオカゲロウ属	●		
48		チラカゲロウ	チラカゲロウ	●	●	
49		ヒラタカゲロウ	ミヤマタニガワカゲロウ属	●		
50			クロタニガワカゲロウ	●		
51			シロタニガワカゲロウ	●	●	
52			エルモンヒラタカゲロウ	●	●	
53			ユミモンヒラタカゲロウ	●		
54			キョウトキハダヒラタカゲロウ	●	●	
55		トンボ (蜻蛉)	イトトンボ	アジアイトトンボ	●	
56				クロイトトンボ	●	●
57	カワトンボ		ハグロトンボ	●		
58				アサヒナカワトンボ	●	
-				カワトンボ属		●
59	ヤンマ		クロスジギンヤンマ		●	
60				ギンヤンマ		●
61				コンボソヤンマ	●	●
62				ミルンヤンマ	●	●
63			サナエトンボ	ヤマサナエ	●	●
64					ダビドサナエ	●
-				ダビドサナエ属	●	●
65				オナガサナエ	●	●
66				アオサナエ		●
67				コオニヤンマ	●	●
68				ヒメサナエ	●	●
69				オジロサナエ	●	●
70				コサナエ		●
-				サナエトンボ科	●	●
71			オニヤンマ	●	●	
72			コヤマトンボ	●	●	
73	トンボ		ショウジョウトンボ		●	
74				シオカラトンボ	●	●
75				オオシオカラトンボ	●	●
76				コシアキトンボ		●
77				マユタテアカネ		●
78				リスアカネ		●
79	カワゲラ (セキ翅)		オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属	●	●
80			オナシカワゲラ属	●	●	
81		ミドリカワゲラ	ミドリカワゲラ科	●		
82		カワゲラ	フタツメカワゲラ属	●	●	
83		アミメカワゲラ	ヒメカワゲラ属	●		
84	カメムシ (半翅)	アメンボ	オオアメンボ		●	
85			アメンボ	●	●	
86			ヒメアメンボ	●		
87			コセアカアメンボ	●	●	
88			シマアメンボ		●	
-			アメンボ科		●	
89			カタビロアメンボ	カタビロアメンボ科		●
90		ミズムシ (昆)	コミズムシ属		●	
91		タイコウチ	タイコウチ		●	
92			ミズカマキリ		●	
93	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	●	●	
94		センブリ	センブリ属		●	
95	トビケラ (毛翅)	シマトビケラ	コガタシマトビケラ		●	
96				ナミコガタシマトビケラ	●	●
97				ミヤマシマトビケラ属	●	
98				ウルマーシマトビケラ	●	●
99		カワトビケラ	タニガワトビケラ属		●	
100		ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ		●	
101		ナガレトビケラ	ヒロアタマナガレトビケラ	●		
102				ムナグロナガレトビケラ	●	●



表 8-1-4-51(3) 底生動物調査結果一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				早春季	夏季	
-	トビケラ (毛翅)	ナガレトビケラ	ナガレトビケラ属	●		
103		コエグリトビケラ	コエグリトビケラ属		●	
104		カクスイトビケラ	ハナセマルツツトビケラ		●	
105		アシエダトビケラ	コバントビケラ	●	●	
106		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	●	●	
107		カクツツトビケラ	オオカクツツトビケラ	●		
-			カクツツトビケラ属	●	●	
108		ヒゲナガトビケラ	タテヒゲナガトビケラ属	●	●	
109			アオヒゲナガトビケラ属		●	
110		エグリトビケラ	キリバネトビケラ属	●		
111			スジトビケラ属	●		
112			ホタルトビケラ属	●	●	
113		ホソバトビケラ	ホソバトビケラ		●	
114		マルバネトビケラ	マルバネトビケラ属	●	●	
115		ケトビケラ	トヨウウグマガトビケラ	●	●	
116	ハエ (双翅)	ヒメガガンボ	ヒゲナガガガンボ属	●	●	
117		ガガンボ	ガガンボ属	●	●	
118		チョウバエ	チョウバエ科	●	●	
119		ヌカカ	ヌカカ科	●	●	
120		ケヨソイカ	フサカ属	●		
121		ユスリカ	ケブカエリユスリカ属	●		
122			ハダカユスリカ属	●		
123			ユスリカ属	●	●	
124			トラフユスリカ属	●	●	
125			スジカマガタユスリカ属	●		
126			ボカシヌマユスリカ属	●	●	
127			ツヤムネユスリカ属	●	●	
128			ホソケブカエリユスリカ属	●		
129			エリユスリカ属	●	●	
130			ハモンユスリカ属	●		
131			カモヤマユスリカ	●		
-			サワユスリカ属	●		
132			カユスリカ属		●	
133			ナガレツヤユスリカ属	●		
134			ウスギヌヒメユスリカ	●		
135			アシマダラユスリカ属	●	●	
136			ヒゲユスリカ属	●		
-			ユスリカ科	●		
137			カ	ハマダラカ属		●
138				ナミカ属		●
139			ホソカ	ホソカ属	●	●
140			ブユ	アシマダラブユ属	●	●
141			ナガレアブ	クロモンナガレアブ	●	
142				サツマモンナガレアブ	●	
143			ミズアブ	ミズアブ科	●	
144	コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	モンキマメゲンゴロウ	●	●	
-			ゲンゴロウ科	●		
145		ガムシ	マルガムシ	●		
-			ガムシ科		●	
146		ヒメドロムシ	ナガアシドロムシ属		●	
147		ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナノミ		●	
148			クシヒゲマルヒラタドロムシ	●	●	
149			ヒラタドロムシ	●	●	
150		ホタル	ゲンジボタル		●	
151			ヘイケボタル	●		
合計		20 目	78 科	151 種	116 種	109 種

注1：分類、配列等は原則として「令和元年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和元年、国土交通省）に準拠した。

注2：種又は亜種まで同定されなかったもので、同一の分類群に属する種が確認されている場合、種数を計数しなかった。

② 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況

(a) 重要な種及び注目すべき生息地

a) 文献その他の資料調査

「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」(令和 2 年、環境省)及び「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行った。

(7) 調査地域

調査地域は対象事業実施区域及びその周辺とした。

(イ) 調査方法

文献その他の資料調査により確認された動物について、表 8-1-4-52 に示す選定根拠に基づき学術上又は希少性の観点から重要な種及び注目すべき生息地を抽出した。

表 8-1-4-52 重要な種及び注目すべき生息地の選定根拠

選定基準		対象となる動物						
法律及び文献等の名称	カテゴリー	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	昆虫類	魚類	底生動物
I 「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行)	・特別天然記念物 ・天然記念物	●	●	●	●	●	●	●
II 「埼玉県文化財保護条例」 (1955 年 10 月 1 日公布、同日施行)	・特別天然記念物 ・天然記念物	●	●	●	●	●	●	●
III 「小川町文化財保護条例」 (1961 年 2 月 28 日公布、同日施行)	・天然記念物	●	●	●	●	●	●	●
IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行)	・国際希少野生動植物種 ・国内希少野生動植物種 ・特定第一種国内希少野生動植物種 ・特定第二種国内希少野生動植物種	●	●	●	●	●	●	●
V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」 (令和 2 年、環境省)	・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 (CR) ・絶滅危惧 I B 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・情報不足 (DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	●	●	●	●	●	●	●
VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」(2018 年、埼玉県)	・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 (CR) ・絶滅危惧 I B 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・準絶滅危惧 1 型 (NT1) ・準絶滅危惧 2 型 (NT2) ・情報不足 (DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) ・地帯別危惧 (RT)	●	●	●	●	●	●	●
VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(2000 年、埼玉県)	・希少野生動植物種	●	●	●	●	●	●	●

(ウ) 調査結果

7) 哺乳類

文献その他の資料調査により確認された 21 種の哺乳類のうち、表 8-1-4-53 に示すとおり 1 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-53 文献その他の資料調査による重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準							文献・資料		
				I	II	III	IV	V	VI	VII	1	2	
1	ネズミ	リス	ムササビ							NT1			●
合計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注 1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（1993 年、環境庁）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注 3：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成 12 年 3 月、小川町）のうち、「第 2 部 小川町の動物相」における記載種

イ) 鳥類

文献その他の資料調査により確認された 104 種の鳥類のうち、表 8-1-4-54 に示すとおり 47 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-54(1) 文献その他の資料調査による重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準										文献・資料	
				I	II	III	IV	V	VI			VII			
									全県評価	地帯別評価					
										低山帯	台地・丘陵帯		1	2	
1	キジ	キジ	ヤマドリ						VU(繁・越)	VU(繁・越)	VU(繁・越)		●		
2	カモ	カモ	オシドリ					DD	EN(繁) VU(越)	EN(繁) VU(越)	VU(越)		●	●	
3	ハト	ハト	アオバト						RT(繁)	LP(繁)			●	●	
4	ペリカン	サギ	ササゴイ						EN(繁)	EN(繁)	EN(繁)			●	
5			チュウサギ				NT	VU(繁)	VU(繁)	VU(繁)		●			
6			コサギ					NT2(繁)		NT2(繁)		●	●		
7	ツル	クイナ	バン						NT2(繁)					●	
8			オオバン					NT1(繁)				●			
9	カッコウ	カッコウ	ホトトギス						RT(繁)	LP(繁)				●	
10			ツツドリ					LP(繁)	LP(繁)				●		
11	チドリ	チドリ	タゲリ						NT2(越)		EN(越)		●	●	
12			ケリ				DD	NT1(繁) EN(越)						●	
13			イカルチドリ					NT1(繁)	NT1(繁)	NT1(繁)		●	●		
14			シギ	イソシギ					VU(繁)		NT2(繁)		●	●	
15	タカ	タカ	トビ						DD(繁)		DD(繁)		●	●	
16			ツミ					NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)		●			
17			ハイタカ				NT	DD(繁) NT2(越)	DD(繁・越)	NT2(越)		●	●		
18			オオタカ				NT	VU(繁・越)	VU(繁)	VU(繁) NT2(越)			●		
19			サシバ				VU	CR(繁)	VU(繁)	CR(繁)			●		
20			ノスリ					NT2(繁・越)	NT2(繁)	DD(繁) NT2(越)		●	●		
21	フクロウ	フクロウ	フクロウ						RT(繁) NT2(越)	DD(繁)	VU(繁) NT2(越)			●	
22			アオバズク					NT2(繁)	DD(繁)	NT2(繁)			●		
23	アホウドリ	カワセミ	アカショウビン						CR(繁)	CR(繁)	EX(繁)			●	
24			カワセミ					RT(繁)				●	●		
25			ヤマセミ					NT2(繁)	VU(繁)	EN(繁)		●	●		
26	キツツキ	キツツキ	アオゲラ						RT(繁)				●	●	
27	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ						NT2(繁)	EX(繁)	VU(繁)		●	●	
28	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ					VU	EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)			●	
29		サンコウチョウ	サンコウチョウ						EN(繁)	EN(繁)	CR(繁)			●	
30		シジュウカラ	コガラ						NT2(繁)	NT2(繁)			●		
31		ヤマガラ					RT(繁)		NT2(繁)		●	●			
32		ヒガラ					RT(繁)		VU(繁)		●	●			
33		ウグイス	ウグイス						RT(繁)	NT2(繁)			●	●	
34		ヤブサメ					NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)			●			
35		ムシクイ	メボソムシクイ						NT2(繁)	NT2(繁)			●		
36		セグイ					NT2(繁)	NT2(繁)	CR(繁)			●			
37		ヨシキリ	オオヨシキリ						NT2(繁)		NT2(繁)			●	
38	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ						NT2(繁)	NT2(繁)			●			
39	ヒタキ	ヒタキ	トラツグミ						NT2(繁)	NT2(繁)	VU(繁)		●		
40			ルリビタキ					RT(越)					●	●	

表 8-1-4-54(2) 文献その他の資料調査による重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料	
				I	II	III	IV	V	VI			VII		
									全県評価	地帯別評価				
										低山帯	台地・丘陵帯		1	2
41	スズメ	ヒタキ	キビタキ						RT(繁)		NT1(繁)			●
42			オオルリ						RT(繁)		CR(繁)			●
43		アトリ	ベニマシロ						RT(越)		NT2(越)	●		
44		ホオジロ	ホオジロ						RT(繁)		NT2(繁)	●	●	
45			ミヤマホオジロ						NT1(越)		NT1(越)	●	●	
46			アオジ						DD(繁)			●	●	
47			クロジ						RT(越)		NT2(越)	●		
合計	13 目		23 科	47 種	0 種	0 種	0 種	0 種	7 種	47 種	27 種	33 種	0 種	29 種

注1：分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（2012年、日本鳥学会）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

(繁)：繁殖期 (越)：越冬期

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注3：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第3回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成12年3月、小川町）のうち、「第2部 小川町の動物相」における記載種

ウ) 爬虫類

文献その他の資料調査により確認された 11 種の爬虫類のうち、表 8-1-4-55 に示すとおり 10 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-55 文献その他の資料調査による重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料	
				I	II	III	IV	V	VI 全県 評価	VII 地帯別評価		1	2	
										低山帯	台地・ 丘陵帯			
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ						NT2	NT2	NT2		●	
2		カナヘビ	ニホンカナヘビ						RT				●	
3		タカチホヘビ	タカチホヘビ						VU	NT1	VU		●	
4		ナミヘビ	シロマダラ						VU	NT1	VU		●	
5			ジムグリ						NT1	NT2	NT1		●	
6			アオダイショウ						NT2	NT2	NT2		●	
7			シマヘビ						VU	EN	EN		●	
8			ヒバカリ						NT1	NT1	NT2		●	
9			ヤマカガシ						NT1	NT1	NT2	●	●	
10		クサリヘビ	ニホンマムシ						NT2	NT2	NT2		●	
合計	1 目	5 科	10 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	10 種	9 種	9 種	0 種	1 種	10 種

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注 3：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成 12 年 3 月、小川町）のうち、「第 2 部 小川町の動物相」における記載種

I) 両生類

文献その他の資料調査により確認された 13 種の両生類のうち、表 8-1-4-56 に示すとおり 11 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-56 文献その他の資料調査による重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料		
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2	
										低山帯	台地・ 丘陵帯				
1	有尾	サシヨウオ	トウキョウサシヨウオ				国内II	VU	EN	EN	EN		●	●	
2			ハコサシヨウオ					NT1	VU					●	
3			イモリ	アカハライモリ					NT	CR	CR	CR	●		●
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル						NT1	NT2	VU			●	
5			アカガエル	ナガレタゴガエル						NT1	NT1				●
6				ニホンアカガエル						VU		VU			●
7				ヤマアカガエル						NT2	NT2	NT1			●
8				ツチガエル						EN	EN	VU			●
9				トウキョウダルマガエル					NT	NT1	NT1	NT1			●
10			アオガエル	ショレゲルアカガエル						NT2	NT2	NT2			●
11				カジカガエル						NT1	NT2	NT1			●
合計	2 目	5 科	11 種	0 種	0 種	0 種	1 種	3 種	11 種	10 種	9 種	1 種	1 種	11 種	

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注 3：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成 12 年 3 月、小川町）のうち、「第 2 部 小川町の動物相」における記載種

わ) 昆虫類

文献その他の資料調査により確認された 2669 種の昆虫類のうち、表 8-1-4-57 に示すとおり 160 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-57(1) 文献その他の資料調査による重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準								文献・資料		
				I	II	III	IV	V	VI			VII	1	2
									全県評価	低山帯	地帯別評価 台地・丘陵帯			
1	トンボ	カワトンボ	アオハダトンボ					NT	VU		VU		●	●
2		イトトンボ	キイトトンボ						NT2	NT2	NT2		●	●
3			モートンイトトンボ					NT	EN	EN	EN		●	
4		ムカシトンボ	ムカシトンボ						NT1	NT1	NT1			●
5		ヤンマ	ルリボシヤンマ						NT1	NT1	NT1		●	
6			コシボソヤンマ						NT1	NT1	NT1		●	●
7			サラサヤンマ						NT2		NT2		●	●
8		サナエトンボ	ヤマサナエ						NT2	NT2	NT2		●	●
9			ホンサナエ						VU		VU		●	●
10			クロサナエ						NT1	NT1	NT1			●
11			ヒメサナエ						NT1	NT1	NT1		●	●
12			アオサナエ						NT1		NT1		●	●
13		トンボ	ハラビロトンボ						NT2		NT2		●	●
14			ヒメアカネ						VU		VU		●	●
15	バッタ	コオロギ	クマコオロギ						NT1	DD	NT2			●
16		ヒバリモドキ	エゾスズ						RT					●
17		マツムシ	スズムシ						RT					●
18			コガタカントダン						VU	VU	EN			●
19		ツユムシ	エゾツユムシ						NT2		NT2			●
20			ヘリグロツユムシ						DD	NT1				●
21		ササキリ	ヒメツユムシ						NT1	NT1	NT1			●
22		モドキ	クズゾコバ 榊ササキモドキ						NT2	NT2	NT2			●
23		クツワムシ	クツワムシ						EN	CR	VU			●
24		キリギリス	ヒガシキリギリス						NT1	NT2	NT2			●
25			オナガササキリ						RT					●
26			ヒメクササキリ						NT1		NT1			●
27		バッタ	セグロイナゴ						VU		NT2			●
28			ナキイナゴ						NT1	NT1	VU			●
29	ヒナバッタ							NT1	NT1				●	
30	ヒメフキバッタ							NT1	NT2	NT1			●	
31	ヤマトフキバッタ							RT		NT2			●	
32	アオフキバッタ							RT		NT2			●	
33	クルマバッタ							NT2	NT2	NT2			●	
34	ツマグロバッタ							VU	VU	VU			●	
35	ナナフシ	トビナナフシ	エダナナフシ					VU	VU				●	
36		ヤスマツトビナナフシ						NT2	NT2	NT2			●	
37	ハサミ	クギヌキ	エゾハサミムシ					LP		LP			●	
38	ムシ	ハサミムシ	キバネハサミムシ					DD		LP			●	
39	ガロアムシ	ガロアムシ	ガロアムシ					LP		NT2			●	
40	カメムシ	セミ	アカエゾゼミ					NT1	NT1			●	●	
41			ハルゼミ					NT1	NT1	NT1		●	●	
42		ウンカ	クロスジオウンカ						NT1		NT1			●
43		ハネナガ	アヤヘリハネナガウンカ						NT1	NT1	NT1			●
44		ウンカ	キスジハネビロウンカ						NT1	NT1	NT1			●
45		アリヅカウカ	アリヅカウカ						NT1	NT1	NT1			●
46		コオイムシ	コオイムシ					NT	CR	CR	CR		●	



表 8-1-4-57(2) 文献その他の資料調査による重要な種 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準								文献・資料				
				I	II	III	IV	V	全県評価	VI 地帯別評価		VII	1	2		
										低山帯	台地・丘陵帯					
47	カメムシ	ナベブタムシ	ナベブタムシ							VU	VU	VU		●		
48		ミズカメムシ	ムモンミズカメムシ							NT1	NT1	NT1			●	
49		カサシメ	マダラカサシメ							NT1	NT1				●	
50		アメンボ	オオアメンボ							NT2	NT2	NT2		●	●	
51		マキバサシガメ	ベニモンマキバサシガメ							NT2	NT2	NT2			●	
52		サシガメ	ビロウドサシガメ							VU	VU	VU			●	
53			トゲサシガメ							NT1	NT1	NT1			●	
54			アカヘリサシガメ							NT2	NT2	NT2			●	
55		ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ							NT1	NT1	NT1			●	
56			アズキヘリカメムシ							NT1	NT1	NT1			●	
57		カメムシ	シモフリクチブトカメムシ							NT1	NT1				●	
58			タマカメムシ							NT1	NT1				●	
59		ツノカメムシ	ツノアカツノカメムシ							NT1	NT1				●	
60		コウチュウ	オサムシ	ホソハンミョウ						VU	NT1		NT1		●	●
61			タナカツヤハネゴミムシ							DD					●	
62			イグチケブカゴミムシ							NT	NT1		NT1		●	
63			アオヘリアオゴミムシ							CR	EN		EX		●	
64	カサシメ		マダラコガシラミズムシ							VU	VU		VU		●	
65	ゲンゴロウ		ケシゲンゴロウ							NT	EN	EN	EN		●	
66			ヒメシマチビゲンゴロウ								NT1	NT1	NT1		●	
67			シマゲンゴロウ								NT	NT1	NT1	VU		●
68	ミズスマシ		コミズスマシ							EN	DD		DD		●	
69			ミズスマシ								VU	CR	CR	CR	●	
70	ガムシ		スジヒラタガムシ							NT	NT1	NT1			●	
71			シジミガムシ								EN	DD	DD	DD		●
72			コガムシ								DD					●
73			コガタガムシ								VU					●
74	ハネカクシ	フジヤマダルマアリヅカムシ								NT1		NT1		●		
75	コガネムシ	トラハナムグリ								NT1		NT1		●		
76		アカマダラハナムグリ								DD	NT1	NT1	NT1		●	
77	タマムシ	ウバタマムシ								NT2	NT2	NT2		●		
78	ホタル	ゲンジボタル								VU	VU	VU		●		
79		ヘイケボタル									NT1	NT1	NT1		●	
80	ケシキスイ	オオキマダラケシキスイ								NT2	NT2			●		
81	テントウムシ	アイヌテントウ								NT2	NT2	NT2		●		
82	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ								EN	EN	EN	EN		●	
83		クスベニカミキリ									NT2	NT2	NT2		●	
84		アカアシオオアカミキリ									NT2		NT2		●	
85		トラフカミキリ									NT2	NT2	NT2		●	
86		シロスジカミキリ									NT2	NT2	NT2		●	
87		チョッキリゾウムシ	オオケブカチョッキリ								NT1				●	
88	ハチ	ヤドリキバチ	トサヤドリキバチ							DD				●		
89		セイボウ	フタツバトゲセイボウ								LP		LP		●	
90			オオセイボウ									DD				●
91		アリ	マナヅルウロコアリ								LP		LP		●	
92			トゲアリ									VU				●
93		クモバチ	スギハラクモバチ								DD	LP	LP		●	
94			フタモンクモバチ									NT				●
95		スズメバチ	モンズズメバチ								DD				●	
96		ギングチバチ	カラトイスカバチ								DD				●	

表 8-1-4-57(3) 文献その他の資料調査による重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準							文献・資料			
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2
										低山帯	台地・ 丘陵帯			
97	ハチ	ギングチバチ	ナンブジガバチモドキ						NT2	NT2	NT2		●	
98			サッポロジガバチモドキ						NT1	NT1	NT1		●	
99			オタネギングチ						NT2		NT2		●	
100			キュビギングチ					DD	EN	EN			●	
101			ササキリギングチ					NT	EN				●	
102			ワタナベギングチ						NT1	NT1			●	
103			コシジロギングチ						NT2		NT2		●	
104			ニッポントゲアワフキバチ					DD	EN	EN	EN		●	
105			ヒメハナバチ	ミカドヒメハナバチ					VU	VU			●	
106			ハキリバチ	キョウトハキリバチ					NT2	NT2	NT2		●	
107	クズハキリバチ					DD					●			
108	フルカワフトハキリバチ						DD	VU		VU	●			
109	ミツバチ	ナミルリモンハナバチ					DD				●			
110	ハエ	ミズアブ	ヒメキイロコウカアブ						NT2	NT2	NT2		●	
111		アブ	マツムラヒメアブ						NT2	NT2	NT2		●	
112		ハナアブ	ニトベベッコウハナアブ						NT2	NT2	NT2		●	
113			カワムラモモプトハナアブ						NT2		NT2		●	
114			ハチモドキハナアブ						NT2	NT2	NT2		●	
115			コシアキオオモモプトハナアブ						NT1		NT1		●	
116			ヒメハチモドキハナアブ						NT2	NT2	NT2		●	
117		デガンラバエ	コマダラハチモドキバエ						NT2		NT2		●	
118		ヤドリバエ	ダイミョウヒラタハナバエ						NT1	NT1	NT1		●	
119		チョウ	セセリチョウ	キバネセセリ						NT2	NT2			●
120	ミヤマセセリ								NT1		NT1	●	●	
121	ギンイチモンジセセリ							NT	NT2	CR	NT2		●	
122	ホソバセセリ								NT2	NT1	NT2	●	●	
123	コチャバネセセリ								NT2				●	
124	スジグロチャバネセセリ							NT	VU	EX			●	
125	ヘリグロチャバネセセリ								NT1	CR		●	●	
126	コキマダラセセリ								VU				●	
127	アカセセリ							EN	EX				●	
128	オオチャバネセセリ								NT2		NT2		●	
129	シロチョウ			ツマグロキチョウ					EN	EN		EN		●
130				スジボソヤマキチョウ						VU	CR			●
131	シジミチョウ			ゴイシジミ						NT2				●
132			ウラゴマダラシジミ						VU		NT1		●	
133			オナガシジミ						NT1	NT1	CR		●	
134			ウスイロオナガシジミ						VU	VU		●	●	
135			ウラクロシジミ						NT2	NT2	NT2		●	
136			ミドリシジミ						NT1	VU	NT1		●	
137			オオミドリシジミ						NT1			●	●	
138			ウラジロミドリシジミ						CR	CR			●	
139			ジョウザンミドリシジミ						CR	CR		●	●	
140			ハヤシミドリシジミ						VU	NT1		●	●	
141			コツバメ						NT2		NT2	●	●	
142			クロシジミ					EN	EX	EX	EX		●	
143			アサマシジミ					EN	EX	EX			●	
144			タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン					VU	VU	VU	NT2		●
145	オオウラギンスジヒョウモン								NT2		NT2		●	

表 8-1-4-57(4) 文献その他の資料調査による重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料		
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2	
										低山帯	台地・ 丘陵帯				
146	チョウ	タテハチョウ	メスグロヒョウモン							NT2		NT2		●	●
147			クモガタヒョウモン							NT2	NT2	NT2		●	●
148			ウラギンヒョウモン							NT2		NT2			●
149			アサマイチモンジ							NT2	VU	NT2			●
150			オオミスジ							NT1	NT1	EX		●	
151			ミスジチョウ							NT2		VU			●
152			ホシミスジ							NT1	NT1				●
153			ヒオドシチョウ							VU		VU		●	●
154			クジャクチョウ							NT2					●
155			オオムラサキ						NT	VU		NT1		●	●
156			ジャノメチョウ							NT2		NT1		●	●
157		ヤママユガ	ヤママユ							RT	NT2	NT2			●
158			エゾヨツメ							RT	NT2	EN		●	
159		コブガ	トビイロリング							DD	DD	DD			●
160		ヤガ	コシロシタバ						NT						●
合計	10 目	65 科	160 種	0 種	0 種	0 種	0 種	40 種		148 種	93 種	114 種	0 種	33 種	154 種

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内Ⅰ：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内Ⅱ：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版)」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注3：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第5回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成12年3月、小川町）のうち、「第2部 小川町の動物相」における記載種

か) 魚類

文献その他の資料調査により確認された 36 種の魚類のうち、表 8-1-4-58 に示すとおり 12 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-58 文献その他の資料調査による重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準							文献・資料	
				I	II	III	IV	V	VI	VII	1	2
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類					VU	CR		●	
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ					EN	NT2			●
3	コイ	コイ	キンブナ					VU	VU		●	●
4		ドジョウ	ドジョウ					NT			●	●
5		フクドジョウ	ホトケドジョウ					EN	CR		●	●
6	ナマズ	ギギ	ギバチ					VU			●	●
7	サケ	キュウリウオ	ワカサギ						NT1			●
8		サケ	ニッコウイワナ					DD	VU		●	●
9			ヤマメ					NT	VU		●	●
10	ダツ	メダカ	ミナミメダカ					VU	NT2			●
11	スズキ	カジカ	カジカ(大卵型)					NT			●	●
12		ハゼ	ジュズカケハゼ					※			●	●
合計	7 目	11 科	12 種	0 種	0 種	0 種	0 種	11 種	8 種	0 種	9 種	11 種

注 1：分類、配列等は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2019 年 11 月、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注 3：※について、ジュズカケハゼは、2010 年に 4 種に分類され、「ジュズカケハゼ(広域分布種)」と「ムサシノジュズカケハゼ(関東固有種)」が関東地方に分布している。これら 2 種の選定基準は、以下のとおりである。

ジュズカケハゼ(広域分布種)：NT、ムサシノジュズカケハゼ(関東固有種)：EN

注 4：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成 12 年 3 月、小川町）のうち、「第 2 部 小川町の動物相」における記載種

キ) 底生動物

文献その他の資料調査により確認された 14 種の底生動物のうち、表 8-1-4-59 に示すとおり 6 種が重要な種に選定された。

表 8-1-4-59 文献その他の資料調査による重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									文献・資料		
				I	II	III	IV	V	全県 評価	VI 地帯別評価		VII	1	2	
										低山帯	台地・ 丘陵帯				
1	新生腹足	タニシ	マルタニシ						VU	VU		VU			●
2	イシガイ	イシガイ	イシガイ						NT2			NT2			●
3			ドブガイ						NT2			NT2			●
4	マルスタレガイ	シジミ	マシジミ						VU						●
5	エビ	ヌマエビ	ヌカエビ						NT2						●
6		サワガニ	サワガニ						NT2						●
合計	4 目	5 科	6 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種	5 種	0 種	3 種	0 種	0 種	6 種	

注 1：分類、配列等は原則として「令和元年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（令和元年、国土交通省）に準拠した。

注 2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955 年 10 月 1 日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961 年 2 月 28 日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日公布、平成 5 年 4 月 1 日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内 I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内 II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2020 の公表について」（令和 2 年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」（2018 年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧 1 型、NT2：準絶滅危惧 2 型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000 年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注 3：文献・資料は、以下のとおりである。

1：「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）

2：「小川町の歴史 別編 小川町の自然 動物編」（平成 12 年 3 月、小川町）のうち、「第 2 部 小川町の動物

相」における記載種

b) 現地調査

(7) 調査地域

調査地域及び周辺河川とした。

(イ) 調査方法

現地調査により確認された動物について、表 8-1-4-52 に示した選定根拠に基づき学術上又は希少性の観点から重要な種及び注目すべき生息地を抽出した。

(ウ) 調査結果

7) 哺乳類

現地調査により確認された哺乳類のうち、表 8-1-4-60 に示すとおり 2 種の哺乳類が重要な種に選定された。

現地調査で確認された重要な種の確認状況は表 8-1-4-61 に、確認位置は図 8-1-4-7 に、それぞれ示すとおりである。

表 8-1-4-60 現地調査による重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域		重要種選定基準								
				内		外	I	II	III	IV	V	VI	VII	
				変更区域	内									外
1	コウモリ	—	コウモリ目※	●		●						※	※	
2	ネズミ	リス	ムササビ		●	●							NT1	
合計	2 目	2 科	2 種	1 種	1 種	2 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	2 種	0 種	

注1：分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（1993年、環境庁）に準拠した。

注2：重要種の選定基準は、以下のとおりである。

I 「文化財保護法」（昭和25年5月30日公布、同日施行）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

II 「埼玉県文化財保護条例」（1955年10月1日公布、同日施行）に基づく天然記念物・特別天然記念物

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

III 「小川町文化財保護条例」（1961年2月28日公布、同日施行）に基づく天然記念物

天：天然記念物

IV 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日公布、平成5年4月1日施行）

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、国内I：特定第一種国内希少野生動植物種、

国内II：特定第二種国内希少野生動植物種

V 「環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年、環境省）における選定種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

VI 「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（2018年、埼玉県）における記載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、NT1：準絶滅危惧1型、NT2：準絶滅危惧2型、DD：情報不足、

LP：絶滅のおそれのある地域個体群、RT：地帯別危惧

VII 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」（2000年、埼玉県）に基づく希少野生動植物種

●：希少野生動植物種

注3：※について、コウモリ目は種又は亜種までの同定がされていないが、バットディテクターで20kHz前後をピークとする周波数帯が確認されたものについては、確認状況から重要な種である可能性が高いと考えられたため、選定することとした。なお、種数は1種として計上した。可能性のある重要な種とその選定基準は、以下のとおりである。






ヤマコウモリ：VU（選定基準V）・VU（選定基準VI）、オヒキコウモリ：VU（選定基準V）・DD（選定基準VI）

表 8-1-4-61 重要な種の確認状況（哺乳類）

種名	対象事業実施区域		外	確認状況
	内			
	改変区域			
	内	外		
コウモリ目	●		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季及び夏季調査において、対象事業実施区域外で6例、対象事業実施区域内で10例、対象実施区域内で1例（改変区域内で1例）、合計11例が確認された（バットディテクターによる鳴き声の確認）。</li> <li>・確認環境は、広葉樹林、針葉樹林及び高茎草地であった。</li> </ul>
ムササビ		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季、冬季及び春季調査において、対象事業実施区域外で6例、対象事業実施区域内で1例、合計7例が確認された（目撃、糞及び突孔）。</li> <li>・確認環境は、人工構造物、針葉樹林及び広葉樹林であった。</li> </ul>

# 動植物保全の観点から 非公開

凡 例

-  対象事業実施区域及び関連施設
-  町村界
-  調査地域
-  変更区域
-  哺乳類 重要種確認位置



1:17,500

0 150 300 450 600 750 m

図 8-1-4-7

重要な種確認位置（哺乳類）